

もっと日本を。もっと世界へ。



國學院大學

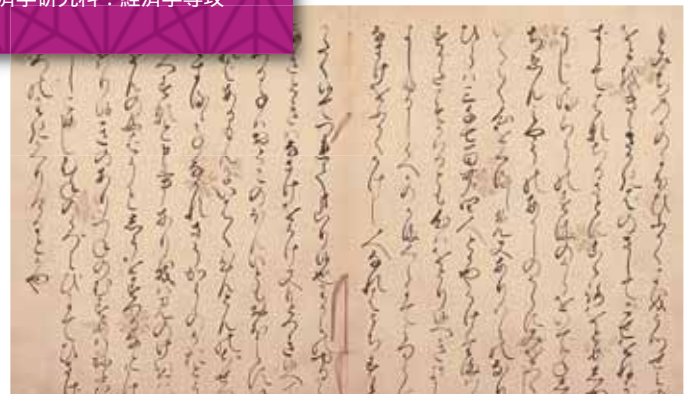


# 國學院大學

Graduate School of Kokugakuin University

# 大学院

文学研究科：神道学・宗教学専攻 / 文学専攻 / 史学専攻  
法学研究科：法律学専攻 経済学研究科：経済学専攻



# 充実した学修環境と支援を用意

## — 意欲ある人材に呼びかける

國學院大學は、明治15年(1882)に創設された「皇典講究所」を母体とし、同23年(1890)に国史・国文・国法を究明する教育機関として発足した「國學院」を淵源としており、令和4年(2022)には創立140周年を迎えました。大学院は、戦後間もない昭和26年(1951)に文学研究科修士課程が開設されたことにはじまり、2年後には博士課程も設置されました。その後、昭和42年(1967)には法学研究科、同43年(1968)には経済学研究科が順次開設され、令和8年(2026)には創立75周年を迎えました。現在、3研究科の下に5専攻(神道学・宗教学、文学、史学、法学、経済学)がおかれ、今日に至っています。

昨今の学問研究をめぐる環境はますます厳しさを増し、大学院を出た若手研究者がなかなか定職に就けない状況が続いています。そのようななかにおいて、本学大学院は毎年10名前後の学位(博士号)取得者を輩出しており、彼らのなかから本学の専任教員になる人も、文学部・神道文化学部を中心にかなりの数にのぼります。かくいう私も、本学大学院出身者の末席につらなるひとりです。また法学研究科では公務員コースを設置して、修了後の就職を見据えた細やかな指導をおこなっており、経済学研究科でもキャリアコースを設置して、税理士資格の取得に向けた充実したカリキュラムを用意しています。

令和2年度(2020)からはコースワーク制を導入し、複数の教員による論文指導体制を導入しました。これによって大学院生は、自分の研究を多角的にとらえることが可能となり、より客観的・相対的な検討ができるようになったと考えます。また同年には奨学金制度の改正もおこなわれ、経済支援型と学業奨励型の二本立てになり、従来よりも手厚い支援を受けられるようになったことは特記すべきでしょう。さらに令和3年度(2021)からは、大学院がどのような授業を展開しているのかを学部生に知ってもらうため、文学研究科で体験授業を開催し、現在ではすべての研究科で実施しています。また令和5年度(2023)からは、有職者や育児・介護従事者のために前期課程において修業年限を3年間あるいは4年間にする長期履修制度をはじめ、休学期間を半期ごとに改めて前期課程の9月修了を可能にし、科目等履修生や聴講生の登録料の軽減も実施しました。その他、中国・南開大学外国語学院との学術交流(院生フォーラム)も今年で12年目を数え、留学支援なども整備しており、他の大学院との単位互換や学位取得者に対する出版助成もおこなっています。21世紀も四半世紀を迎えようとしていますが、本学大学院は混沌とした国際情勢・社会情勢に立ち向かう、探究心・知的好奇心にあふれた意欲ある方々の入学を期待しています。

大学院委員長 佐藤 長門  
Sato Nagato

### 國學院大學大学院 組織図



# 学位取得までのサポート

## 大学院入学前

### 大学 (学部)

#### 入試制度

一般入試 社会人入試  
外国人入試 学内推薦等

文学研究科：書類審査・口述試験にて選考  
法学研究科：先取り履修(P18)、学内推薦入学(P18)  
経済学研究科：2年以内の学部卒業生も出願可能



#### 減免制度

本学出身者  
入学金および施設設備費半額(本学博士前期課程修了者が後期課程に進学した場合は全額)免除

## 大学院での学修・研究 学位取得

### 博士前期課程 (標準修業年限2年)

学位授与  
**修士**  
30単位以上修得  
修士論文提出……  
最終試験

#### 博士前期課程 学修支援

T・A(ティーチング・アシスタント)……  
大学院奨学金、留学に伴う奨学金、国際交流旅費補助、  
長期履修制度(社会人等)  
科目等履修生、聴講生、特別研究生 研究誌:大学院紀要他  
アカデミックアドバイザー……

#### 博士前期課程 取得可能な資格

教員専修免許 学芸員専修プログラム(P10)  
1級考古調査士 税理士試験一部免除(P23-24)

#### 博士前期課程 キャリアサポート

企業セミナー・模擬面接指導会など(P27)

#### 【科目等履修生・聴講生】

正規入学せずに授業科目を履修することができる制度です。修得単位は、大学院入学後に修了に必要な単位として認定されます。  
また、単位の認定を必要としない場合は「大学院聴講生制度」により授業科目の聴講が可能です。詳細については大学院事務課までお問い合わせください。

#### 【学芸員専修プログラム】

学芸員専修プログラムは、近年の博物館に求められる多様で高度な役割に対応できる人材の養成を目的とした、学芸員資格課程のリカレント教育です。履修対象は、原則として博物館法第5条に定める学芸員資格を有する方です。本プログラムでは、前期課程または後期課程の修了に加え、博物館学コースで所定科目の必要単位を修得し、口頭試問に合格することにより、「学芸員専修プログラム修了証明書」を取得できます。博物館学コース以外を主専攻とする方も本プログラムを副専攻することで取得が可能(修了要件以外の科目を履修するため指導教員の許可が必要)です。博物館の基本的機能に加え、包摂、多様性、持続可能性、地域貢献など、社会的課題に対応する力を養うことを重視しています。

#### 【教員専修免許状】

専修免許状とは、第一種普通免許状(学部で取得)を基礎として、大学院を修了して修士の学位を有し、「教科または教職に関する科目」の所定単位を修得することで取得可能な教員免許状であり、一種免許状の上位の免許状です。近年の教育現場では、教科に関する高度な専門知識や教授法が求められる傾向が高まりつつありますので、大学院での高度な研究を通して得た知見を教育の現場で活かしたい、と考える皆さんにとって必要な免許状と言えるでしょう。

#### 課程認定されている専修免許状の種類および教科

研究科	専攻	免許状の種類および教科	
		中学校教諭専修免許状	高等学校教諭専修免許状
文学研究科	神道学・宗教学	社会	公民
	文学	国語	国語
	史学	社会	地理歴史
法学研究科	法律学	社会	公民
経済学研究科	経済学	社会	公民

第一種普通免許状を有している場合のみ申請可

### 博士後期課程 (標準修業年限3年)

学位授与  
**博士**  
12単位以上修得  
博士論文提出  
最終試験

#### 博士後期課程 学修支援

T・A(ティーチング・アシスタント)……  
R・A(リサーチ・アシスタント)……  
アカデミックアドバイザー……  
大学院奨学金、留学に伴う奨学金、国際交流旅費補助  
特別研究生

#### 課程博士学位取得者等

P・D(ポスト・ドクター)研究員……  
特別研究員(研究費助成) 博士学位論文の出版助成

## その他の支援体制

#### 【特別研究生】

博士前期課程を修了して博士後期課程への進学準備をする者や、博士後期課程の所定単位を修得のうえ退学し、博士学位論文の提出準備をする者は特別研究生として指導教員のもとで研究を継続することができます。

#### 【国際交流旅費補助】

海外における国際的な学会等への参加や調査研究の費用(航空運賃・宿泊費など)を助成します。海外で研究発表や調査を行うことで、研究業績を積み上げることができます。

#### 【特別研究員への研究費助成】

若手研究者のグローバル人材養成を目的として、一定の要件を満たす特別研究員(課程博士学位取得者)の研究活動を支援するための研究費(図書費・研究調査費・国際学会旅費など)を助成します。

#### 【刊行物】

##### 課程博士学位論文刊行に關わる出版助成

博士の学位を得た修了生に対し、博士学位論文の出版にかかる経費の一部を助成します。

##### 大学院紀要

年1回刊行される『國學院大學大学院紀要-文学研究科-』『國學院法政論叢』『國學院大學経済学研究』には、在学生が指導教員の推薦に基づき自身の論文を投稿することができます。掲載された査読付き論文は、本人の研究業績となります。

##### 國學院雑誌

『國學院雑誌』は、広く人文諸科学の普及を計り、深くこの学問を研究して、その成果を公表する場として刊行されるものです。本学教職員や学生、院友その他の方々の研究業績をひろく取り上げ、これを学界に紹介することを目的とされています。(國學院雑誌投稿規程より)

## 大学院修了後

### 研究者・教員ほか

### 学費/ 奨学金制度



#### 【学費等納付金(令和8年度参考)】 単位:円

出身	博士前期課程		博士後期課程	
	本学	他大学	本学	他大学
文学研究科	715,000	925,000	515,000	925,000
法学研究科	715,000	925,000	515,000	925,000
経済学研究科	715,000	925,000	515,000	925,000
(内入学金)	(100,000)	(200,000)	(-)	(200,000)

2年目以降は入学金を除いた金額を納入  
詳細は、「学生募集要項」をご参照ください。

#### 【國學院大學大学院奨学金制度(給付)】

本学独自の奨学金制度です。  
経済支援型と学業奨励型の奨学金制度があります。経済支援型には入学前から申請ができる予約型もあります。  
大学院奨学金の詳細は、本学HPをご参照下さい。

#### 【協定留学及び認定留学奨学金(給付)】

海外の大学へ協定留学又は認定留学を行う大学院生に対し、学業を奨励し、留学期間が2学期間の者には40万円を、1学期間の者には20万円を支給します。

#### 【税理士試験支援奨学金(給付)】

税理士試験に1科目以上合格している経済学研究科の学生に対し、外部セミナー受講料の50%相当(10万円を上限)を、在学期間中2回まで給付します。

#### 【日本学生支援機構奨学金(貸与)】

第1種(無利子)  
前期課程：月額50,000円・88,000円から選択  
後期課程：月額80,000円・122,000円から選択  
第2種(有利子)  
月額50,000円・80,000円・100,000円・130,000円・150,000円から選択

#### 【私費外国人留学生授業料減免制度】

一定の要件を満たすことにより、授業料が3割減免されます。

このほか経済的な負担を軽減し、学業奨励を目的とする奨学金制度があります。



# おも 3つの慮い

異なる2つの概念の調和を目指します



## 研究教育開発推進に関する宣言

國學院大學は、建学の精神である「神道精神」に基づく研究教育を更に創造的に発展させ、

主体性・独自性を保持しつつ、国際社会での協調・共生体制を構築し、

学術研究及び教育を通して日本社会の発展と世界の平和に貢献する。

本学は、「伝統と創造」「個性と共生」「地域性と国際性」の調和を研究教育における基本方針と定め、

日本人としての自覚と教養を身につけ、自立した個性を有し、

より良き日本社会と世界の形成に尽力できる意思と能力を持つ人材を育成することを目標とする。

また、研究教育における成果を広く社会に還元するとともに、研究教育の質的向上を不断に図り、

具体的施策を立案・実施・検証する体制を構築し、その推進に当たることを宣言する。

## 大学院基本研究教育方針〔大学院憲章〕

### 【学統の継承・発展と創新】

本学学術資産への理解を基に、学統の継承・発展そして新たな創造を企図する。

### 【研究倫理確立を通じた人格の陶冶】

研究倫理・法令の遵守・人権の保護を徹底し、それらを基盤とする人格の陶冶に努める。

### 【研究能力の飽くなき向上】

創新・企画・協調・遂行の資質の涵養によって、国際化に対応する研究能力の向上を図る。

### 【学知の拡大と連携】

関連領域のない学問は存在しない。よって学知の拡大を企図し、より高度な専門知識の獲得の上に、多様で柔軟な隣接領域への学知の拡大を推進する。

### 【研究成果の発信と社会還元】

学習成果の可視化、研究成果の発信を積極的に推進する。

# 3 博士課程教育実施方針 3つのポリシー

## 学位授与方針 *diploma policy*

博士前期課程においては、研究科で定める教育課程の単位を修得し、専門的知識を自らのものとするとともに、主体的に研究課題を定め、これに関する諸研究の検討を行い、新たな知見を加えた修士論文あるいはリサーチ・ペーパーを提出し、かつ口述試験において的確な応答を行い、十分な学力があると認定された者に、その専攻分野を示す修士号を授与する。

博士後期課程においては、研究科で定める教育課程の単位を修得するとともに、その分野の研究動向を理解した上で、独自の見解を含む博士論文を提出し、かつ口述試験において的確な応答を行い、その分野で継続的な研究が行い得ると認定された者に、その専攻分野を示す博士号を授与する。また、自ら定めた課題に対する研究が独創的であり、新境地を拓いたと認められる博士論文を提出し、かつ口述試験において博士後期課程の所定単位修得者と同等の学力があると認定された者に対しても、その専攻分野を示す博士号を授与する。

## 教育課程の編成・実施方針 *curriculum policy*

大学院の設置目的を具現化するために文学、法学、経済学の3研究科を置き、学生が専門的知識を修得するとともに、研究課題に主体的に取り組んで成果があげられるようになることを方針としている。この方針に基づいて、各研究科とも博士前期課程(修士)と博士後期課程(博士)とを一貫させた教育課程として設け、前期課程では、研究課題に主体的に取り組むのに必要となる幅広い学力と能力が修得できるように、専攻分野ごとに演習、論文指導演習および講義科目などを編成している。後期課程では、専攻分野に関する独創的かつ自立した研究を行う能力、専門的業務に必要な高度な能力が修得できるように、専門分野の演習と論文指導演習あるいは研究指導を編成している。

## 入学者受入れ方針 *admission policy*

大学院ならびに各研究科設置の目的と合致する、積極的な目的意識や志向性を有するとともに、研究科での学修ならびに研究に必要な基礎的な知識や能力などを備えていることを受入方針としている。また、学士課程(学部)修了者を対象とする一般入学に加え、学士課程(学部)において優秀な成績を収めている者の大学院への飛び入学や推薦入学、さまざまな経験を有する社会人や外国人留学生を対象とする入学選抜など、多様な入学制度を設けることで、大学院における学修・研究活動の活性化や視点の拡大をはかることを方針としている。



# 文学研究科

Graduate School of Letters

専攻 神道学・宗教学  
文学  
史学

授与学位 修士(神道学)/博士(神道学)/修士(宗教学)/博士(宗教学)  
修士(文学)/博士(文学)/修士(民俗学)/博士(民俗学)  
修士(歴史学)/博士(歴史学)



## 人間の営為を深く極める

文学研究科は、日本文化の真髄を理解し、かつ幅広い知識を持つことで、新しい価値観を創造し、人類文化の発展に寄与できる優れた研究者や専門的業務に従事する者の養成を目的としています。

この目的のもとに神道学・宗教学専攻、文学専攻、史学専攻の3専攻を設置し、国内は言うに及ばず国際的にも専門性の高い、充実したカリキュラムを整えています。各専攻とも長い歴史を持ち、図書館や博物館など

の豊富な資料も活用しながら教育研究活動を行い、神道、文学、史学の分野に多くの研究者、教育者を輩出しています。さらに、文部科学省が推進する複数の研究プログラムへの採択や、専攻内の新コースの設置、カリキュラム改訂、他の大学院との単位互換、学部生の大学院科目先取り履修制度の導入、入試制度の改革など、特色を活かした教育・研究、学部との連携強化を進めています。

修士・博士ともに、修了者には神道学、宗教学、文学、民俗学、歴史学の学位が与えられ、今日では課程博士の学位を取得する大学院学生も増加傾向にあります。

## 文学研究科 教育研究上の目的と方針(3つのポリシー)

### 文学研究科の教育研究上の目的

文学研究科は、日本文化の真髄を理解し、かつ幅広い知識をもち、新しい価値観を創造し人類文化の発展に寄与することができる、優れた研究者及び専門的な業務に従事する者を養成することを目的とする。

#### 神道学・宗教学専攻

日本古来の伝統宗教である神道を中心とする日本の伝統文化に関して、歴史的思想神学的な理解を深め、内外の諸宗教及びそれに関連する宗教文化の意義と役割を比較研究し、幅広い人材を養成すること。

#### 文学専攻

文化・文学・言語に関する高度な研究の深化・発展を図り、その能力を有する研究者の養成、豊かな学識と高度な教育能力をもつ教育者の養成、及び専門的業務に従事する社会人を再教育すること。

#### 史学専攻

国内外の歴史学・考古学・地理学・博物館学及び美学美術史の幅広い分野に関し研究の深化・発展を図り、各種研究教育機関で研究教育に携わる優れた人材を育成すること、併せて社会人を積極的に受け入れ、幅広い人材を養成すること。

## 文学研究科の博士課程教育実施方針(3つのポリシー)

### 学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)

文学研究科設置目的を実現するために、各専攻において編成されている教育課程を履修し、所定の単位を修得するとともに、論文を提出し、かつ口述試験において的確な応答を行い、十分な学力があると認定された者に、その専攻分野を示す学位を授与する。

また、自ら定めた課題に対する研究が独創的であり、新境地を拓いたと認められる博士論文を提出し、かつ口述試験において博士後期課程の所定単位修得者と同等の学力があると認定された者に対して、その専攻分野を示す博士の学位を授与する。

#### 神道学・宗教学専攻

博士前期課程においては、文学研究科設置目的を実現するために編成されている神道学・宗教学専攻の教育課程を履修し、所定の単位を修得するとともに、神道学ならびに関係諸学にもとづく研究課題を自ら定め、これに関する先行研究の検討を行い、資料について専門的スキルと実証的な研究姿勢を身につけ、柔軟な発想と論理的思考での確かな解釈や分析を踏まえて新たな知見を加えた修士論文を提出し、かつ口述試験において的確な応答を行い、十分な学力があると認定された者には修士(神道学)の学位を、宗教学ならびに関係諸学にもとづく研究課題を自ら定め、これに関する先行研究の検討を行い、資料について専門的スキルと実証的な研究姿勢を身につけ、柔軟な発想と論理的思考での確かな解釈や分析を踏まえて新たな知見を加えた修士論文を提出し、かつ口述試験において的確な応答を行い、十分な学力があると認定された者には修士(宗教学)の学位を、それぞれ授与する。なお、修士(神道学)の学位を、また民俗学を専攻分野とし、上記に該当する者には修士(民俗学)の学位をそれぞれ授与する。

博士後期課程においては、神道学・宗教学専攻の教育課程を履修し、所定の単位を修得する

とともに、神道学、関係諸学、および研究対象に関する先行研究を踏まえて新知見を加えた完成度の高い博士論文を提出し、口述試験において的確な応答を行い、研究者として自立できる学力があると認定された者には博士(神道学)の学位を、宗教学、関係諸学、および研究対象に関する先行研究を踏まえて新知見を加えた完成度の高い博士論文を提出し、口述試験において的確な応答を行い、研究者として自立できる学力があると認定された者には博士(宗教学)の学位を、それぞれ授与する。なお、博士(神道学)の学位と博士(宗教学)の学位を同時に授与することはしない。また、神道学ならびに関係諸学を踏まえて自ら定めた課題に対する研究が独創的であり、新境地を拓いたと認められる博士論文を提出し、口述試験において博士後期課程の所定単位修得者と同等の学力があると認定された者に対して博士(神道学)を授与し、宗教学ならびに関係諸学を踏まえて自ら定めた課題に対する研究が独創的であり、新境地を拓いたと認められる博士論文を提出し、口述試験において博士後期課程の所定単位修得者と同等の学力があると認定された者に対して博士(宗教学)の学位を授与する。

#### 文学専攻

博士前期課程においては、文学研究科設置目的を実現するために編成されている文学専攻の教育課程を履修し、所定の単位を修得するとともに、専攻分野において、自ら研究課題を定め、これに関する先行研究の検討を行い、資料について専門的スキルと実証的な研究姿勢を身につけ、柔軟な発想と論理的思考での確かな解釈や分析を踏まえて新たな知見を加えた修士論文を提出し、かつ口述試験において的確な応答を行い、十分な学力があると認定された者に、日本文学、日本語学、中国文学、高度国語・日本語教育の各コースにおいては修士(文学)の学位を授与する。伝承文学コースにおいては、上記の者には修士(文学)の学位を、また民俗学を専攻分野とし、上記に該当する者には修士(民俗学)の学位をそれぞれ授与する。

博士後期課程においては、文学専攻の教育課程を履修し、所定の単位を修得するととも

に、先行研究を踏まえて新知見を加えた完成度の高い博士論文を提出し、口述試験において的確な応答を行い、研究者として自立できる学力があると認定された者に、日本文学、日本語学、中国文学、高度国語・日本語教育の各コースにおいては博士(文学)の学位を授与する。伝承文学コースにおいては、上記の者には博士(文学)の学位を、また民俗学を専攻分野とし、上記に該当する者には博士(民俗学)の学位を授与する。伝承文学コースにおいては、上記の者には博士(文学)の学位を、また民俗学を専攻分野とし、上記に該当する者には博士(民俗学)の学位をそれぞれ授与する。

#### 史学専攻

博士前期課程においては、文学研究科設置目的を実現するために編成されている史学専攻の教育課程を履修し、所定の単位を修得するとともに、専攻分野において、自ら研究課題を定め、これに関する先行研究の検討を行い、資料について専門的スキルと実証的な研究姿勢を身につけ、柔軟な発想と論理的思考での確かな解釈や分析を踏まえて新たな知見を加えた修士論文を提出し、かつ口述試験において的確な応答を行い、十分な学力があると認定された者に、修士(歴史学)の学位を授与する。

博士後期課程においては、史学専攻の教育課程を履修し、所定の単位を修得するとともに、先行研究を踏まえて新知見を加えた完成度の高い博士論文を提出し、口述試験において的確な応答を行い、研究者として自立できる学力があると認定された者に、博士(歴史学)の学位を授与する。また、自ら定めた課題に対する研究が独創的であり、新境地を拓いたと認められる博士論文を提出し、口述試験において博士後期課程の所定単位修得者と同等の学力があると認定された者に対して、博士(歴史学)の学位を授与する。

### 教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)

文学研究科設置目的を実現するために、各専攻内に専門分野に基づいたコースを設けることによって、学生の研究に資することを方針としている。

#### 神道学・宗教学専攻

博士前期課程においては、入学年度前期に研究倫理教育を課すとともに、コース横断のテーマを扱う導入教育科目を開講し、広い視点と学識を涵養する。また、専攻分野に関する高度な研究能力と専門的業務を担うための能力を培うために各専門分野の演習を設け、複数の指導教員による資料の読解・分析ならびに実地調査などの研究指導を行う。さらに、修士論文とその他の研究論文のまとめ方を修得するために、複数の指導教員による論文指

導演習を実施する。博士後期課程においては、専攻分野に関する自立した研究活動を行う能力と専門的業務を担うためのより高度な能力を培うために、専門分野の演習と論文指導演習を編成する。また、各年度に研究計画と研究進捗状況、ならびに研究業績の報告を義務付け、博士論文の作成を着実に進め所定の修業年限内に提出できるよう指導と督励を行う。

#### 文学専攻

博士前期課程においては、入学年度前期に研究倫理教育を課すとともに、日本文学(高度国語教育含む)、日本語学、伝承文学、中国文学、日本語教育の各コースにおいて、横断のテーマを扱う導入教育科目を開講し、広い視点と学識を涵養する。また、専攻分野に関する高度な研究能力と専門的業務を担うための能力を培うために各専門分野の演習を設け、各コースごとに複数の指導教員による資料の読解・分析ならびに実地調査などの研究指導を行う。さらに、修士論文とその他の研究論文のまとめ方を修得するために、各コースごと

に複数の指導教員による論文指導演習を実施する。博士後期課程においては、専攻分野に関する自立した研究活動を行う能力と専門的業務を担うためのより高度な能力を培うために、専門分野の演習と論文指導演習を編成する。また、各年度に研究計画と研究進捗状況、ならびに研究業績の報告を義務付け、博士論文の作成を着実に進め所定の修業年限内に提出できるよう指導と督励を行う。

#### 史学専攻

博士前期課程においては、入学年度前期に研究倫理教育を課すとともに、コース横断のテーマを扱う導入教育科目を開講し、広い視点と学識を涵養する。また、専攻分野に関する高度な研究能力と専門的業務を担うための能力を培うために各専門分野の演習を設け、複数の指導教員による資料の読解・分析ならびに実地調査などの研究指導を行う。さらに、修士論文とその他の研究論文のまとめ方を修得するために、複数の指導教員による論

文指導演習を実施する。博士後期課程においては、専攻分野に関する自立した研究活動を行う能力と専門的業務を担うためのより高度な能力を培うために、専門分野の演習と論文指導演習を編成する。また、各年度に研究計画と研究進捗状況、ならびに研究業績の報告を義務付け、博士論文の作成を着実に進め所定の修業年限内に提出できるよう指導と督励を行う。

### 入学者受入れ方針(アドミッション・ポリシー)

文学研究科の設置目的である「日本文化の神髄を理解し、かつ幅広い知識をもち、新しい価値観を創造し人類文化の発展に寄与」したいという目的意識や志向性を有する者を対象とする。

#### 神道学・宗教学専攻

神道学・宗教学専攻においては、その資質として、神道文化をはじめ国内外の宗教文化に関する幅広い知識と具体的な研究課題をもち、かつその学修・研究に必要となる問題発見能力、知識、技能などを備えていることを受入方針としている。さらに社会人や外国人を対象とした入学者選抜制度も設け、大学院における学修・研究活動の活性化や視点の拡大などをはかることを方針としている。

以上に加え、博士前期課程においては、学部教育における幅広い教養と基礎的な専門教育を修得した者を受け入れる。博士後期課程においては、博士前期課程修了程度の能力を有し、専門領域において独自の研究計画に基づく継続的研究を志向し、それを遂行するに足る能力と技能を備えた者を受け入れる。

#### 文学専攻

文学専攻においては、その資質として、日本文学、日本語学、中国文学、伝承文学、高度国語・日本語教育の各コースに関する幅広い知識と具体的な研究課題をもち、かつその学修・研究に必要となる問題発見能力、知識、技能などを備えていることを受入方針としている。さらに社会人や外国人留学生を対象とした入学者選抜制度も設け、大学院における学修・研究活動の活性化や視点の拡大などをはかることを方針としている。

#### 史学専攻

史学専攻においては、日本史学および歴史地理学・外国史学・考古学・博物館学・美学美術史の各コースに関する幅広い知識と高い研究意欲ならびに具体的な研究課題をもち、かつその学修・研究に必要となる問題発見能力、知識、技能などを備えている入学者を受け入れる。博士前期課程では、学部教育において幅広い教養と基礎的な専門教育を修得し、さらなる専門的研究をおこなう意欲と知識・技能を備えた入学者を受け入れる。

博士後期課程においては、すぐれた研究論文を提出して修士学位を修得し、専門領域において独自の研究計画に基づく研究を継続する意欲とそれを遂行するに足る能力と技能を備え、所定の修業年限内に博士論文を提出して博士学位を得ようとする目的を持った入学者を受け入れる。また、それと同等の学力と強い研究意欲をもち、博士学位授与に相応しい研究業績を有する者を受け入れる。

## 充実した環境で新しい研究の道を開こう

文学研究科には神道学・宗教学専攻、文学専攻、史学専攻の三つの専攻があります。このうち文学専攻は日本文学コース、日本語学コース、中国文学コース、伝承文学コース、高度国語・日本語教育コースという五つのコースに分かれており、各コースで専門的な授業が行われています。日本文学コースでは上代から現代まですべての時代の作品を研究することができます。日本語学コースでは各時代の日本語から現代の方言まで幅広く研究します。中国文学コースでは各時代・各分野の古典はもとより、道教の儀礼や民間信仰などについての講座も用意されています。伝承文学コースでは生活儀礼・民俗芸能から、口承文芸・現代の都市伝説まで多様な研究が行われています。高度国語・日本語教育コースでは国語教育・日本語教育の方法やビジネス文書の知識など実践的な技術を学ぶことができます。

國學院で学ぶことの大きな利点として、図書館の充実が挙げられます。戦前の学術雑誌から最新の研究書まで豊富に揃っており、他大学の大学院生もこれらの資料を求めて閲覧に来ています。日本の大学の中でもトップクラスの図書館を日常的に使えるのは大きな強みです。

文学研究科では、文献学に基づいた文学研究だけでなく、神道学・歴史学・民俗学・日本語学など多種多様な分野・方法での研究が可能です。國學院の歴史と伝統を踏まえつつも、ぜひ皆さんの手で新しい学問の道を切り開いていただきたいと思います。



文学研究科 文学専攻 教授 岩崎 雅彦  
Iwasaki Masahiko



## 博物館学コース、新カリキュラムへ

ミュージアム

# 博物館を社会とつなぐ場所に。



この度大学院博物館学コースでは、学部での博物館学の学びを深化させ、より専門的な知識と技術を体系的に修得することのできるよう、カリキュラムを大幅に改正します。博物館学をより幅広く、専門的に学ぶことができる、日本では数少ない大学院としての先進性を活かしながら、次世代の博物館と博物館学を担う人材の育成を目指します。博物館学コース以外の専攻生も学べるように設計しましたので、関心のある方はぜひ研究室の扉を叩いてください。これからの博物館を担うのは、あなたです。

文学研究科 史学専攻 教授 内川 隆志  
Uchikawa Takashi

## 新カリキュラムのポイント

### 博物館を幅広く、学際的に学ぶ

理論博物館学、臨床博物館学、博物館史、文化政策学等の科目を通じて、博物館をめぐる歴史的・社会的・文化的知を身につけるとともに、社会におけるその役割を自ら思考する力を養います。

### 博物館の活動を実践的に学ぶ

國學院大学ならでの考古・歴史・民俗・美術の人文系資料論に加え、保存・情報・展示・教育に関する博物館工学の科目を新設。博物館の現場で求められる、多様な実践知を身につけます。

### 博物館の現場にふれる

國學院大学博物館や関連館での実習を通じて、考古・歴史・民俗・美術の各資料の扱い、展示や教育活動等、博物館での実務を具体的に学びます。

### 学芸員資格取得後の学びにも対応

学芸員資格を取得した人々が、その専門性をさらに深めるためのリカレント教育としても位置づけています。



## 新科目の紹介

### 理論博物館学 特論

博物館を単なる資料保存・展示の場としてではなく、政治や社会、文化的な視座から考察します。博物館の歴史、表象、オーディエンス観、ダイバーシティ&インクルージョンなどを通して、「博物館」を理論的に検討します。

### 臨床博物館学 特論

博物館を社会的課題や人々の経験に寄り添う実践の場として捉え、現場で生じる問題を理論と実践の往還から考察します。主にミュージアム・エデュケーションやマネジメントなどを通じ、その社会的役割を検討します。

### 博物館学 実務実習

博物館における実際の業務を、経験的に学びます。國學院大学博物館での実習や佐渡國小木民俗博物館での夏季集中実習を通して学芸員業務の基礎を身につけるとともに、現場で求められる企画力・協働力・実践力を養います。

## 学芸員専修プログラム

学芸員資格取得後、博物館学をより高度かつ実践的に学ぶための専門教育プログラムです。保存・展示・教育・デジタル活用などを体系的に学び、博物館の現場で求められる専門性を高めることができます。現職学芸員の学び直しにも対応しています。博物館学コースは本プログラムを併用して専攻、また博物館学コース以外の専攻は副専攻し、所定の単位を修得することで、修了時に「学芸員専修プログラム修了証明書」が交付されます。

## 神道学・宗教学専攻

Shinto Studies and Religious Studies



Kikuchi Keisuke

### 『先代旧事本紀大成経』を研究、未開拓の分野に切り込む

菊池 圭祐  
國學院大學大学院 文学研究科 神道学・宗教学専攻 博士前期課程 修了  
文学研究科 神道学・宗教学専攻 博士後期課程 在学

大学に入学して本格的な研究に触れ、それまでの知識を詰め込む勉強ではなく、自分の力で新たな事実を発見できることに楽しさを見出しました。私は、近世初期に成立した『先代旧事本紀大成経』という偽書の研究をしています。『大成経』は出版後間もなく発禁処分を受けた日く付きの資料ではありますが、多くの信奉者によって受け継がれ、近世社会に決して少なくない影響を与えたものとして注目を浴びつつあるテーマです。まだ十分に研究が進んでいない分野ですが、その分研究の余地が多く残されているため、とても魅力的でやりがいのある領域です。本学大学院には多くの院生が在籍しており、ゼミ

や授業では活発な議論が交わされています。異なる研究テーマや専門分野を持つ院生との交流は、自身の見識を広げるだけでなく、研究を進める上での大きなモチベーションにもなり、非常に良い環境だと感じています。また、図書館の蔵書が豊富で、気になった論文にすぐアクセスできる点も大きな支えになっています。大学院を修了した後も、研究者としてずっと研究を続けていきたいと考えています。決して容易な道ではありませんが、自らの探究心を貫き、研究に打ち込める貴重な機会を大切にしながら、歩みを続けていきます。日々努力を重ね、一人前の研究者として成長できるよう頑張っていきたいと思っています。

## 近現代の神職養成を調査し、神社界の未来に貢献したい

春田 華奈  
國學院大學大学院 文学研究科 神道学・宗教学専攻 博士前期課程 修了  
文学研究科 神道学・宗教学専攻 博士後期課程 在学

学部卒業後、神社関係の仕事に就き、業務を通じて神社界の抱える様々な課題に関心を持つようになり、それに対し学術的な視点からアプローチするために本学大学院への進学を決めました。私の研究テーマは「近現代における神職養成」です。この研究では、近代から現代に至るまでの神職養成を巡る制度や内容、実情等を調査し、関連する人物や当時の社会及び神社界の情勢といった視点も踏まえ、どのような神職のあり方が望まれ、それに基づいて制度が策定されていったのか、そしてその制度を通じていかなる神職像が形成されてきたのかを探っています。本学大学院は、分野を牽引する専門家である先生

方から直接指導を受けられるだけでなく、多様な背景をもつ学生と関連な議論を交わし、自身の研究を深められる環境でもあります。学術的な深化に留まらず、多角的な視点を養い、人間的な視野を広げる貴重な機会を得られる場となっています。今後、神社界が神職養成制度のあり方について再考する際に、私の研究が僅かでも資することができれば願いながら研究を進めています。私自身、実家が神社であり、日頃から神職として奉仕する身でもあります。神職としての社頭での奉仕と、学術研究の両面から神社界の未来に貢献できるよう、このテーマと生涯にわたって真摯に向き合い、研究を続けていきたいです。



Haruta Kana

### 神道学・宗教学専攻 担当教員

※令和8年4月現在。

氏名	職名/学位	専門分野	主な講義・演習科目	講義・演習テーマ
西田 和彦	教授/博士(神道学・國學院大學)	神道史、国学史	神道史研究AII・BII・特殊研究AII・BII(演習)	近世・近代の神道史・国学史
笹生 衛	教授/博士(宗教学・國學院大學)	神道思想史、日本思想史	神道神学研究AI・BI・特殊研究AI・BI(演習)	垂加神道、国学、出雲大社
松本 久史	教授/博士(神道学・國學院大學)	日本考古学、日本宗教史	神社史研究AI・BI・特殊研究AI・BI(演習)	考古資料と文献史料による神社・祭祀の具体像の研究
加瀬 直弥	教授/博士(神道学・國學院大學)	神道史(近世・近代)、国学研究	神道古典研究A・B・特殊研究A・B(演習)	近世・近代の国学史、神社史
藤本 頼生	教授/博士(神道学・國學院大學)	神道史(古代・中世)	神道史研究AI・BI・特殊研究AI・BI(演習)	古代・中世の神道史・神社史
遠藤 潤	教授/博士(宗教学・國學院大學)	神道学、宗教社会学、神社史	神社史研究AII・BII・特殊研究AII・BII(演習)	近現代の神道および神社・神職の研究
黒崎 浩行	教授/博士(宗教学・國學院大學)	宗教学、日本宗教史(近世・近代)	宗教学研究AI・BI・特殊研究AI・BI(演習)	日本の宗教(近世・近代)に関する宗教学的な研究
三井はるみ	教授/博士(宗教学・國學院大學)	宗教学、宗教社会学	宗教学社会学研究AII・BII・特殊研究AII・BII(演習)	宗教学社会学の調査研究法、現代社会と宗教文化
三井はるみ	准教授/博士(文学・東京大学)	宗教学、近代東アジア宗教史	宗教学研究AII・BII・特殊研究AII・BII(演習)	東アジアの地域と宗教、グローバル化と宗教

## 文学専攻 Literature

### 日本文学コース Japanese Literature

### 数多の『平家物語』異本の研究から、改作者の意向を考察

吉永 優真  
國學院大學大学院 文学研究科 文学専攻 博士前期課程 修了  
文学研究科 文学専攻 日本文学コース 博士後期課程 在学



Yoshinaga Yuma

私の研究対象は『平家物語』です。興味を持ったきっかけは、短大の卒業論文で『平家物語』を対象に執筆し、その面白さに気づいたことでした。大学では野中哲照先生の演習で『平家物語』諸本の奥深さを知り、ますますその魅力に引き込まれました。『平家物語』には数多くの異本があり、それぞれ性格が違いますが、それは改作者たちの考えが反映されているからです。私は、異本の系統分類や、成立時期の先後という部分にはまだ研究の余地があり、現在考えられている順序が覆る可能性もあると考え、多くの異本を見比べながら改作者たちの考えの解読に取り組んでいます。本学大学院では、オムニバスの講義や他作品・

他分野の講義・演習を受けることができる点が大きいと思います。自分の興味のある作品・分野だけでなく周辺の作品・分野も学べるので、研究を行う上での視野が広がります。他分野との関わりが多いため、作品・分野をまたいだ交友関係もでき、様々な角度から研究について意見交換をすることができます。将来はこのまま『平家物語』の研究を続けていき、今取り組んでいる課題の最終目標までやりきりたいと考えています。また、『平家物語』研究を含む中世文学研究は他分野に比べると人口が少ない印象があるので、大学の教員となり後進の育成にも携わりたいと思います。

※令和8年4月現在。

### 日本文学コース 担当教員

氏名	職名/学位	専門分野	主な講義・演習科目	講義・演習テーマ
土佐 秀里	教授/博士(文学・國學院大學)	上代文学	日本上代文学研究AI・BI・特殊研究AI・BI(演習)	万葉集
谷口 雅博	教授/博士(文学・國學院大學)	上代文学	日本上代文学研究AII・BII・特殊研究AII・BII(演習)	古事記・風土記
竹内 正彦	教授/博士(文学・國學院大學)	中古文学	日本中古文学研究AI・BI・特殊研究AI・BI(演習)	源氏物語を中心とした平安朝文学
野中 哲照	教授/博士(文学・早稲田大学)	中世文学	日本中世文学研究AI・BI・特殊研究AI・BI(演習)	平家物語を中心とした中世文学
岩崎 雅彦	教授/博士(文学・國學院大學)	中世文学、近世文学	日本近世文学研究AI・BI・特殊研究AI・BI(演習)	能・狂言
中村 正明	教授	近世文学、明治初期文学	日本近世文学研究AII・BII・特殊研究AII・BII(演習)	江戸戯作(黄表紙・滑稽本)
石川 則夫	教授/博士(文学・國學院大學)	近現代文学、昭和文学	日本近現代文学研究AI・BI・特殊研究AI・BI(演習)	新興芸術派の小説・昭和期の文芸批評
安西 晋二	准教授/博士(文学・國學院大學)	近現代文学	日本近現代文学研究AII・BII・特殊研究AII・BII(演習)	明治期の文学・泉鏡花の小説

## 日本語学コース Japanese Language Studies

### 近代の漢語についての研究

田島 佐和子  
國學院大學大学院 文学研究科 文学専攻 博士前期課程 修了  
文学研究科 文学専攻 日本語学コース 博士後期課程 在学

大学1・2年次はコロナ禍の影響でオンライン授業が中心でしたが、その中で学びを深める意欲が高まり、より専門的な知識を身につけたいと考えようになりました。現在私は、資料に国会会議録や近代の小説などを用いながら、近代(明治・大正)の漢語について、特に「延々」の語の歴史と意味の変遷について研究しています。元々「延々」は中世において時間的長さを表す意味しか持っていませんでしたが、近代から新たに空間的長さを表す意味を獲得したことがわかりました。文学研究科では専任の先生だけでなく兼任の先生も含め多くの先生方による講義が開講されて

おり、文法から方言まで多様な分野を学ぶことができます。授業内で自分の発表を聞いていただける機会も多く、先生や先輩・後輩からのフィードバックを受けることで研究への意欲が高まり、研究のさらなる励みとなっています。また、図書館の資料が非常に充実しており、研究に必要な論文や本はほとんどが図書館でそろえることも本学大学院の魅力の一つです。近代語研究の面白いところは「こういう表現を自分が使うか」という内省が効くところだと思っています。普段、感覚で話している自分の母語を分析することに、奥深さと面白さを感じています。



Tashima Sawako

※令和8年4月現在。

### 日本語学コース 担当教員

氏名	職名/学位	専門分野	主な講義・演習科目	講義・演習テーマ
小田 勝	教授/博士(文学・國學院大學)	日本語文法	日本古代語研究AI・BI・特殊研究AI・BI(演習)	現代対照文法・中古語
三井はるみ	教授/博士(文学・東北大学)	方言学、社会言語学	日本現代語研究A・B・特殊研究A・B(演習)	音声・文法・首都圏方言
吉田 永弘	教授/博士(文学・國學院大學)	日本語史	日本古代語研究AII・BII・特殊研究AII・BII(演習)	文法史・中世語



Sasaki Miyabi

中国文学コース Chinese Literature

「問答体」を作品内容から捉え直す

國學院大學大学院 文学研究科 文学専攻 博士前期課程 修了  
文学研究科 文学専攻 中国文学コース 博士後期課程 在学 佐々木 雅

本学大学院への進学は、藤野岩友博士の『巫系文学論』を学んだことが契機となりました。神人問答では、神と人とが対等に意見を交わす様子が描かれ、作品に宿る神秘性に強い関心を抱きました。現在は、柳宗元作品をはじめとする問答体を取りあげ、その作品内容や場面設定に基づく系統分類を研究テーマとしています。柳宗元は、『楚辞』に見られる神人問答の型を継承しつつも、独自の文体観を展開しています。修士論文では、柳宗元作品に見られる問答体の特徴を明らかにするとともに、『楚辞』や漢代・六朝時代の賦に見られる類例を参照しながら、問答体に規定される「作品内容」に着目して、研究を進めてまいりました。

本学大学院では、宗教学や歴史学などにおいても、最先端の知見に触れることができ、日々大きな刺激となっています。研究対象を的確に評価・分析するという姿勢は、分野を問わず普遍的に求められるものであるため、異なる分野からの学びによって、より豊かな学問的態度を養うことができると考えています。「文学に人間を見る」という言葉があるように、様々な作品を通じて多様な人間像や感性を読み解き、それらに通底する価値を見いだしていきたいです。また、日々学問に向き合う者として、「知之爲知之、不知爲不知。是知也。」という言葉の精神を忘れず、謙虚な姿勢で学問と向き合っています。

令和8年4月現在。

中国文学コース 担当教員

氏名	職名/学位	専門分野	主な講義・演習科目	講義・演習テーマ
石本 道明	教授	中国古典文学・思想史	中国文学研究A・B・特殊研究A・B(演習)	孔子・『論語』・楚辞・蘇軾・江戸漢学
浅野 春二	教授/博士(文学・國學院大學)	中国民俗学・宗教学	中国文学研究A・B・特殊研究A・B(演習)	道教儀礼・招魂呪術・靈魂観
立石 展大	教授/博士(文学・國學院大學)	中国民俗学・民間説話	中国文学研究A・B・特殊研究A・B(演習)	日中昔話比較

伝承文学コース Folk Tradition Studies

フィールドワークを軸に視野を広げ、見世物小屋の特色を探る

國學院大學大学院 文学研究科 文学専攻 博士前期課程 修了  
文学研究科 文学専攻 伝承文学コース 博士後期課程 在学 川津 寧々

新宿・花園神社の西の市ではじめて見世物小屋の興行を見た高校生の私は、その熱気に満ちた空間に一瞬でのぼせ上り、目が離せなくなりました。大学進学後も小屋に足を運び続け、フィールドワークを重ねるたびに興行の奥深さを知るようになりました。卒業論文では近年の見世物興行を具体的に記述し、聞き取りをもとに現代の人々が見世物小屋をどのように捉えているのかを考察しました。学部で身に付けた知識や調査先での経験を踏まえて、研究をさらに深めたいと大学院への進学を決めました。「多様で柔軟な隣接領域への学知の拡大を推進する」という研究教育方針に魅力を感じました。本学大学院には、導入教育科目やコース教員によ

るオムニバス講義があるため、様々な分野から研究法を学び、知識と視点を広げていくことが可能です。そうした講義を受ける中で指導教員を定めることができ、また複数の教員から論文の指導を受けられるため学びが深まります。大学院で過ごすなかで、現在の見世物小屋ばかりを見ていては、見世物小屋を芯から理解することができないと思い至りました。過去の見世物や周辺の芸能に目を向けることで見世物小屋の特色を探り、芸能史の上にもどのように位置付けることができるのかを検討していきたいと考えています。



Kawatsu Nene

令和8年4月現在。

伝承文学コース 担当教員

氏名	職名/学位	専門分野	主な講義・演習科目	講義・演習テーマ
飯倉 義之	教授/博士(文学・國學院大學)	口承芸学・現代民俗学	令和8年度は派遣研究中	
伊藤 龍平	教授/博士(文学・國學院大學)	口承芸学・説話文学	伝承文学研究A・B・特殊研究A・B(演習)	近世の文献資料に載る説話を読み解く
大石 泰夫	教授/博士(文学・國學院大學)	民俗学・日本文学	伝統芸能研究・特殊研究(演習) 日本伝承文化実習(実習)	芸能の基礎的研究を学ぶ 民俗調査の基礎を学ぶ
服部比呂美	教授/博士(民俗学・國學院大學)	民俗学	民俗学研究A・B・特殊研究A・B(演習)	習俗・慣習・子どもの民俗行事・食文化

高度国語・日本語教育コース Advanced Japanese Language and Japanese Education

文末表現を研究し、実践的な日本語教育に貢献したい

亞洲大学大学院 人文学部 国語国文学科(韓国語教育) 修了  
文学研究科 文学専攻 高度国語・日本語教育コース 博士後期課程 在学 高 夏娜



Ko Hana

学部時代は韓国語学を専攻していましたが、日本語学の先生を通して対照言語学に出会い、その知見を応用する言語教育に関心を持つようになりました。これが、本学大学院への進学を決意した大きな理由です。現在は、日本語の断定を和らげる文末表現について研究しています。母国の大学院で、留学生が婉曲表現を十分に使えず、意図せず誤解を招いてしまう場面を目にしたことが出発点でした。明確に伝える力も大切ですが、人と関係を築きながら生活していくためには、より多様な表現に目を向ける必要があると感じています。今後も、一つひとつの表現について丁寧に掘り下げ、学習者への指導にどのよう

に結びつけられるかを考察していきたいです。國學院大學は出身大学の協定校であり、進学前から情報に触れる機会がありました。その中で、人文学の価値や伝統を重んじる雰囲気には惹かれていました。進学した今は、大学院生も一人の研究者として尊重され、自分の関心を軸に研究へ向き合える環境が整っていることを実感しています。また、書庫が充実しており、資料にアクセスしやすい点も、研究を進めるうえで大きな支えになっています。将来は、日本語教育に携わる研究者として歩んでいきたいと考えています。本校大学院で得た学びを活かし、より実践的な教育に貢献できる研究者を目指していきます。

国語教育に向き合い、文学研究と教室をつなぐ役目を担う

國學院大學大学院 文学研究科 文学専攻 博士前期課程 修了  
文学研究科 文学専攻 高度国語・日本語教育コース 博士後期課程 在学 梅崎 晴菜

大学卒業後、私立の中高一貫校に国語科の教員として勤務しました。数年間の教育実践の中で強く感じたことは、教室は、人と文学をつなぐ大切な場なのだということです。教室の中には、国語の授業を通して、一生文学に親しむための素地を身につける生徒もいれば、自分の人生に文学は関係ないと、関心を抱かない生徒もいます。そのような教室の実状に触れ、どのように生徒と文学をつないでいくかを考えるうちに、一度現場から離れて国語教育にしっかりと向き合いたいと考えようになりました。数ある大学院の中から本学大学院を志望した理由は、高度国語・日本語教育コースが文学研究科に設置されているからです。文学部出身の私は、

「文学を学習者にどう手渡すか」ということへの関心が強かったので、教職大学院や他大学の教育学研究科ではなく、本学大学院で文学を基とした研究を行いたいと思いました。今の私は、国語科教育の中で、教材がどのように取り扱われてきたのかという国語教育史の分野に関心があります。各時代にどの作品が教室で読まれ、学習者に受容されていったのか。文学作品の教材としての姿を捉えることは、人々と文学の有り様を明らかにすることにもつながると思っています。将来は、研究の成果をどのように学校教育現場に還元するのかに目を向けながら、文学研究と教室をつなぐ役目を担っていきたくて考えています。



Umezaki Haruna

令和8年4月現在。

高度国語・日本語教育コース 担当教員

氏名	職名/学位	専門分野	主な講義・演習科目	講義・演習テーマ
齋藤 智哉	教授	教育方法学	国語教育実践研究A・B・特殊研究A・B(演習)	国語教育の歴史・思想・実践の研究 授業の臨床的研究
高山 実佐	教授	国語教育学	国語教育実践研究A・B・特殊研究A・B(演習)	授業実践研究(中高国語科)・教科書教材研究・国語科教育史研究
植松 容子	准教授/博士(教育学・広島大学)	日本語学・日本語教育学	日本語教育研究A・B・特殊研究A・B(演習)	日本語教育文法・中間言語分析・タスクベースの日本語教育教材研究
諸星美智直	教授/博士(文学・國學院大學)	日本語学・日本語教育学	日本語教育研究A・B・特殊研究A・B(演習)	日本語教育史・近代日本語・ビジネス文書学・ビジネス日本語文法・福祉言語学
菊地 康人	客員教授	日本語学・日本語教育学	日本語教育研究A・B・特殊研究A・B(演習)	日本語の文法・敬語 日本語教育設計

日本史学コース

Japanese History



Kishi Mina

近代天皇陵と地域社会の関係性を探る

國學院大學 文学部 史学科 卒業  
文学研究科 史学専攻 日本史学コース 博士前期課程 在学 岸 美菜

学部2年次に出会った研究テーマを卒業論文としてまとめるなかで、新たな問いが生まれました。こうした関心をさらに発展させるため、より専門的な指導の下で研究を深めたいと考えようになりました。

私は、近現代日本において天皇陵がどのような役割を果たしたのかをテーマとしています。近代以降に造られた天皇陵をめぐる、近接自治体や住民、地元企業、旅行・交通業界といった諸主体が各々の利害の下で天皇陵の「聖」性に接近し、時に巧みに利用してきました。こうした人々の姿を通して天皇陵が果たした役割を明らかにし、天皇と人々の関係を再検討したいと考えています。

本学大学院はコースやゼミ単位でも人数が多く、互いの研究発表を聞き合う機会が豊富で、常に刺激を受けられる環境です。授業だけでなく、学生同士による史料読解の勉強会や読書会など多様な自主ゼミが行われ、大学院生用のグループ自習室も設置されたことで、より活発に活動できるようになりました。

将来は博物館の学芸員として、歴史学と地域・社会を架橋したいと考えています。研究生活や博物館でのアルバイトを通じて研究成果を社会に発信する重要性を実感しました。歴史学の立場から地域や社会の要望に応え、双方の発展に寄与できる人材になることを目指しています。

史料読解にもとづく足利義持と『鹿苑院殿御佳例』

東海大学 文学部 歴史学科 史学専攻 卒業  
文学研究科 史学専攻 日本史学コース 博士前期課程 在学 山田 貴翔

卒業論文の執筆に向けて史料を収集・分析するなかで、史料を読むことそのものに面白さを感じるようになり、大学院では史料をより正確に読み解く力を身につけたいと考えようになりました。

現在は「足利義持と『鹿苑院殿御佳例』」をテーマに、足利義満から義持への継承面・断絶面について検討を進めています。とりわけ、室町殿の朝廷儀礼への関与の仕方を比較・分析するとともに、義満の例が公家社会において佳例として求められていたのかという点についても視野に入れて、考察を深めたいと思っています。

本学大学院には、院生用学習室が設けられており、マスター・ドクターの先輩方からアドバイスや

学会情報など、研究に有益な知見を得られる点が大きな魅力です。また、図書館は蔵書数が多いだけでなく貴重書も豊富に所蔵されており、実際に手に取って確認できる機会があることも、研究を進めるうえで非常に心強い環境だと感じています。

将来の目標は、くずし字を流暢に読めるようになるといった基本的な力の向上にとどまらず、筆者の意図や文書の機能、保管方法など、史料からより多くの情報を読み取れるようになることです。さらに、史料の信憑性を丁寧に検討したうえで、適切に史料を論拠として扱える研究者へと成長していきたいと考えています。



Yamada Takato

令和8年4月現在。

日本史学コース 担当教員

氏名	職名/学位	専門分野	主な講義・演習科目	講義・演習テーマ
佐藤 長門	教授/博士(歴史学・國學院大學)	古代史	日本古代史研究A・B・特殊研究A・B(演習) 日本史研究A・B(演習)	王権論・権力構造論・女帝論・入唐僧
高橋 秀樹	教授/博士(史学・学習院大学)	中世史	日本中世史研究A・B・特殊研究A・B(演習)	家・中世貴族・鎌倉幕府・三浦一族・史料論
矢部健太郎	教授/博士(歴史学・國學院大學)	中世史	日本中世史研究A・B・特殊研究A・B(演習)	豊臣政権・朝廷・家格・大名支配・中近世移行期
吉岡 孝	教授/博士(歴史学・國學院大學)	近世史	日本近世史研究A・B・特殊研究A・B(演習)	地域・幕末・八王子千人同心・関東取締出役・改革組合村
岩橋 清美	教授/博士(史学・中央大学)	近世史	令和8年度は派遣研究中	
樋口 秀実	教授/博士(歴史学・國學院大學)	近現代史	日本近現代史研究A・B・特殊研究A・B(演習)	政治・軍事・外交・日中関係・対日協力者
手塚 雄太	教授/博士(歴史学・國學院大學)	近現代史	日本近現代史研究A・B・特殊研究A・B(演習)	日本近現代史・日本政治史
多和田真理子	教授	近代教育史	日本近現代史研究A・B・特殊研究A・B(演習)	近代学校・地域教育史・教育社会史・学校資料・史料保存
川名 禎	准教授/博士(歴史学・國學院大學)	歴史地理学	歴史地理学研究A・B・特殊研究A・B(演習)	近世都市・城下町・絵図・交通史・流通史・地誌
吉田 敬弘	客員教授	人文地理学、歴史地理学、地図学	地図学研究A・B・特殊研究A・B(演習)	農村景観史・農業史・中世村落・荘園絵図・寺社絵図

外国史学コース

World History



Koma Taisuke

禁軍研究から読み解く唐代制度史

國學院大學 文学部 史学科 卒業  
文学研究科 史学専攻 外国史学コース 博士前期課程 在学 小間 泰輔

学部時代に、専修免許状を取得して将来に活かしたいと考えていたこと、そして講義で講読した『資治通鑑』を通して中国史のドラマティックな魅力に触れ、さらに深く探究したいと思ったことが、本学大学院への進学の大きな動機となりました。

現在は隋唐時代の制度史、特に唐代の軍事制度と禁軍について研究しています。皇帝の爪牙として機能した禁軍が、唐という国家の内外で起こる大小様々な出来事に対して、どのように活動していたのか、その実態を少しでも明らかにしたいと考えています。

本学大学院の魅力としてまず挙げたいのは、やはり雰囲気の良いことです。専攻の垣根を超えて談笑

したり助言を交わしたりすることが日常的にあり、そうしたやり取りの中から研究のヒントが生まれることも少なくありません。また、大学院全体が研究に集中しやすい環境に整えられている点も、大きな強みだと感じています。

将来は研究を続けながら唐代制度史の理解を一層深めるとともに、専修免許状や、大学院で培った知識・技能を活かして教育の現場にも携わりたいと考えています。歴史の面白さを実感してもらえる授業をつくっていくことが目標です。

外国史学コース 担当教員

令和8年4月現在。

氏名	職名/学位	専門分野	主な講義・演習科目	講義・演習テーマ
江川 式部	准教授/博士(史学・明治大学)	中国前近代史	東洋史研究A・B(演習)	中国中世-近世の礼制・法制と社会
神長 英輔	教授/博士(学術・東京大学)	ロシア近現代史	西洋史研究A・B(演習)	ペレストロイカ開始からソ連解体までのソ連における連邦制と民族問題

考古学コース

Archaeology

「1級考古調査士」が取得可能

古墳時代の集落遺跡から探る日韓の人々の共生と文化形成

國學院大學 文学部 史学科 卒業  
文学研究科 史学専攻 考古学コース 博士前期課程 在学 市原 佑真

大学院に進学し、学びと研究を続けることで、学部在学中に身につけた歴史学・考古学の理論や方法を、一層深く理解したいと考えました。

私は現在、「古墳時代における集落遺跡からみた日本列島と朝鮮半島の人々の交流」をテーマに研究しています。集落遺跡から出土した朝鮮半島系文物を分析し、両地域の人々の共生が日本列島の文化や社会の形成過程にどのような影響を与えたのか、そして、その背景にどのような要因があったのかを実証的に明らかにすることを目指しています。

本学大学院には、各分野に複数の専任教員が配置されており、第一線で研究を牽引する教員から直接学ぶことができます。こうした環境のもとで、

幅広い知識を吸収しながら自分の研究を深められる点は大きな魅力です。また、考古学コースでは発掘調査や実物資料の分析を行う実習が充実しており、研究者や文化財専門職員・博物館学芸員として求められる技能を、実践的に身につけられる環境が整っています。

将来は、文化財専門職員や博物館学芸員として、歴史学・考古学に携わりたいと考えています。国民共有の財産である文化財の価値を正しく評価し、適切に活用したうえで、市民に分かりやすい形で還元していくことができるよう、大学院で高度な専門性を磨いていきたいと思っています。

考古学コース 担当教員

令和8年4月現在。

氏名	職名/学位	専門分野	主な講義・演習科目	講義・演習テーマ
谷口 康浩	准教授/博士(歴史学・國學院大學)	先史学	先史考古学研究A・B・特殊研究A・B(演習)、考古学実習B(実習) 理論考古学研究A・B(演習)、考古学特論A(講義)	縄文文化・社会考古学・環状集落・縄文土器・儀礼祭祀
青木 敬	教授/博士(歴史学・國學院大學)	歴史考古学	歴史考古学研究A・B・特殊研究A・B(演習)	古墳・官衙・寺院・集落・土器 歴史考古学特論A・B(講義)、考古学実習A(実習)

美学美術史コース | Aesthetics and Art History



Obara Mao

多角的な視点から探る歌川国芳の実像研究

國學院大學 文学部 哲学科 卒業  
文学研究科 史学専攻 美学美術史コース 博士前期課程 在学 **小原 真緒**

大学入学前から浮世絵を学びたいと考えており、浮世絵研究を専門とする藤澤紫先生がいらっしゃる國學院大學を志望しました。入学当初から大学院進学を視野に入れていましたが、卒業論文に取り組む中で、先生のご指導を受けながら、江戸時代後期に活躍した浮世絵師・歌川国芳について、より深く研究したいと考えるようになりました。

現在は、国芳と先行絵師との関係や画像学習を通して、歌川派における国芳の立ち位置を見出したいと考えています。近年、国芳といえば「奇想」や「破天荒」という文言が目立ちますが、私は国芳の真面目さや作品に対する真摯な姿勢が伝わる研究を目指し、取り組んでいます。

本学大学院には各分野に専門の先生方がいらっしゃるので、幅広い指導を受けることができます。毎月開催されるコロキウムでは、美学美術史コースの学生、先生、修了生など多くの方が集まり、それぞれの研究発表と発表に対するディスカッションが行われ、分野の異なる方から意見やアドバイスをいただける貴重な機会です。

博士前期課程修了後は後期課程に進学し、先行研究の蓄積を踏まえつつ新たな国芳像を提示できるよう研究を深めていくつもりです。また、大学院修了後は、浮世絵の面白さや楽しみ方を多くの人に伝えるため、浮世絵や日本美術に携われる仕事に就きたいと考えています。

美学美術史コース 担当教員

※令和8年4月現在。

氏名	職名/学位	専門分野	主な講義・演習科目	講義・演習テーマ
三浦 篤	教授/博士(美術史・考古学・パリ第4大学)	西洋近代美術史、日仏美術交流史	美術史研究AⅠ・BⅠ・特殊研究AⅠ・BⅠ(演習)	フランス近代絵画、ジャポニスム、日本近現代美術など
藤澤 紫	教授/博士(哲学・学習院大学)	日本美術史、日本文化史、比較芸術	美術史研究AⅡ・BⅡ・特殊研究AⅡ・BⅡ(演習)	日本近世・近代美術史、浮世絵、景観表現、出版文化史
岡本 源太	教授/博士(人間・環境学・京都大学)	美学、哲学、芸術学	美学研究A・B・特殊研究A・B(演習)	西洋美学史、西洋ルネサンス美学、現代美学、現代芸術論
小池 寿子	客員教授	西洋美術史、死生学	美術史研究AⅢ・BⅢ・特殊研究AⅢ・BⅢ(演習)	西洋中世美術、死の図像学、西洋文化史(服飾・色材等)、イメージ研究

博物館学コース | Museology

文化財の継承と社会をつなぐ博物館活動の研究

学習院大学 文学部 史学科 卒業  
文学研究科 史学専攻 博物館学コース 博士前期課程 在学 **嶋津 尚志**

幼い頃から史跡や博物館を訪れることを楽しんでいました。その中で、文化財の伝来や時代ごとの価値観の変化、表現の手法にも自然と関心を持つようになりました。

こうした関心を背景に、現在は近現代における神社・寺院の博物館活動について研究しています。現在残されている文化財の多くは、前近代には信仰対象や宝物として護り伝えられてきたものでした。しかし、近代化の過程でそれらは「文化財」として再定義され、保存や展示、社会普及の方法も大きく変化していきます。各地の事例を調査することで、文化財がどのように社会の中で受け継がれてきたかを明らかにしたいと考えています。

研究を進めるうえで、本学大学院は大学博物館が研究室に隣接しているため、文化財の保存・展示・活用を実際の現場に即して学ぶことができ、大変恵まれた環境だと感じています。研究活動を支援する制度も充実しており、自身の関心に応じて主体的に研究を深めることができます。

将来は、研究を通じて得た知識や経験を活かし、文化財の魅力や歴史のおもしろさをより多くの人に伝えていきたいと考えています。デジタル技術など新たな表現方法も活用しながら、文化財と社会をつなぐ活動に取り組んでいきたいです。



Shimazu Naoyuki

博物館学コース 担当教員

※令和8年4月現在。

氏名	職名/学位	専門分野	主な講義・演習科目	講義・演習テーマ
内川 隆志	教授	博物館学	理論博物館学研究A・特殊研究A(演習) 博物館学実習A・B・特殊実習A・B	近世好古家研究・近代博物館史・博物館学史・地域博物館論・博物館技術学
山本 哲也	教授	博物館学	理論博物館学研究B・特殊研究B(演習)	博物館史・博物館学史・博物館教育・ミュージアムマネジメント・パリアフリー

法学研究科 | Graduate School of Law

高度な専門知識・専門能力と、問題解決のための分析力を身につける

法学研究科は、法律学・政治学に関する専門知識を修得するのみならず、みなさんが疑問に感じる問題の所在を分析し、解決の方向や具体的な説明を主体的に提示できる人材の育成を目標としています。法学研究科で指導・教育を担う専任教員は、それぞれの分野で、自らの疑問と格闘し、その解決方法やよりよい説明を提示するために思索を続けてきた研究者であり、その意味でみなさんの先輩でもあります。ですから、みなさんの疑問を正確に受け止め、みなさんと一緒に問題に取り組み、みなさんの問題意識をより深く考えるサポートを行うことができるでしょう。また、高度な専門知識を有する職業人を養成し、修了後の社会人としての活躍を促進するために、実務家教員による科目(公共政策演習・キャリアプランニング)も開講しています。

法学研究科 教育研究上の目的と方針(3つのポリシー)

法学研究科の教育研究上の目的

法学研究科は、学部教育を基礎とし、法学及び政治学に関する、専門的分析能力を用いて先端的問題を総合的に分析・判断し社会的諸問題の解決に貢献する者、及び専攻分野に関し独創的研究を行い指導する能力をもつ研究者を養うことを目的とする。

法学研究科の博士課程教育実施方針(3つのポリシー)

学位授与方針  
(ディプロマ・ポリシー)

博士前期課程においては、学部教育における幅広い教養と基礎的な専門教育を踏まえ、法学または政治学についての高度な専門知識を十分に自らのものとし、主体的で独自の観点から現代社会における法的・政治的事象を分析する能力を示す成果をあげた者に対し、修士の学位を授与する。

博士後期課程においては、博士前期課程で修得した高度な専門知識と主体的で独自の姿勢に加えて、自らの研究成果を纏めるための研究計画を立案し、着実に実行することができ、かつ、実行のために必要とされる資料収集、読解能力、語学及び情報処理技術などを身につけ、今後、専攻分野において独創的研究を継続的にを行い、後進を指導する能力を身につけたことを示す成果をあげた者に対し、博士の学位を授与する。

教育課程の編成・実施方針  
(カリキュラム・ポリシー)

博士前期課程においては、学生が専門知識を修得し、主体的で独自の観点から現代社会における法的・政治的事象を分析する能力を獲得できるように、指導教員が担当する授業科目、研究指導及び論文指導演習を開講する。加えて、関連諸領域における法的・政治的な諸問題についても専門知識を修得できるように、指導教員以外が担当する授業科目を開講する。

博士後期課程においては、学生が専攻分野に関するより高度な専門知識を修得し、より独創的かつ自立的な研究活動に必要とされる高度な専門的技術を含めた研究能力を獲得できるように、指導教員が担当する授業科目、研究指導及び論文指導演習を開講する。

なお、新たに生起する問題や先進的な研究動向に応じた学修の機会を確保するために、特殊研究(演習)を開講する。

入学者受入れ方針  
(アドミッション・ポリシー)

博士前期課程においては、学部教育における幅広い教養と基礎的な専門教育に基づいて、価値観と利害関係が多様化する現代社会に生起する諸問題を法学または政治学の観点から総合的に分析・判断し、それらの解決に主体的に関わりようとする積極的な姿勢を持つ者を受け入れる。とりわけ、社会人としての経験を踏まえて具体的な研究課題を見いだしている者を受け入れる。

博士後期課程においては、博士前期課程修了程度の能力を有し、加えて専門領域においてさらなる独自の研究計画に基づき継続的研究を志向し、それを遂行するに足る能力と技能を備えた者を受け入れる。

専攻分野 法学 / 政治学  
 コース 公務員養成 / 研究  
 授与学位 修士(法学) / 博士(法学)



# 法学研究科 公務員養成コース

法学研究科では、「研究コース」に加えて「公務員養成コース」を開設しております。公務員養成コースでは、公務員を志望する学生が夢を実現できるよう、公務員試験に合格し、かつ、就職後も学術的基礎に基づいた活躍ができる人材を養成することを目指します。大学院に在籍して更に知識を深め、トレーニングを積んで、公務員試験合格を勝ち取りましょう！

## 公務員養成コースの特徴

公務員養成に特化した講義(「実践研究」科目)を多数開講し、受験や実務に役立つ知識や能力を修得することを目指します。「公共政策演習」や「キャリア・プランニング」では、現役の公務員や公務員OB・OGを講師として招き、面接試験の模擬実践や実務に向けたトレーニングを行います。プロジェクト・ペーパーを執筆することで、政策上の課題を分析し、解決策を提案する能力を身に着けます。学部4年次に「先取り履修」を用いることで、大学院を1年間で修了することもできます。

## 公務員養成コースのカリキュラム

### 実践研究科目

従来の「研究」科目(憲法研究・政治学研究等)に加えて、公務員試験の主要科目について「実践研究」科目(憲法実践研究・政治学実践研究等)を開講します。「実践研究」科目では、公務員試験の過去問を素材として、重要な理論・判例・法令を学んだり、答案の執筆方法をトレーニングしたりします。

実践研究科目	憲法実践研究 商法実践研究	行政法実践研究 外国法実践研究	国際法実践研究 政治学実践研究	刑法実践研究 など	民法実践研究
--------	------------------	--------------------	--------------------	--------------	--------

### 実務家教員による科目

「公共政策演習」では、地方自治体の公務員が講師となり、地方自治体が抱える政策問題を材料に、解決策を検討します。現役の公務員や公務員OB・OGと議論することで、面接試験の対策にもなります。「キャリア・プランニング」では、公務員OB・OGが講師となり、あるべき公務員像や公務員試験で求められるものについて考えます。公務員としての資質を磨く機会になります。

### プロジェクト・ペーパー

博士前期課程修了の要件として「プロジェクト・ペーパー」を執筆します。指導教員の指導の下で、自己の関心のある政策上の課題に関し、それを解明するために必要な学問分野の学術的知見を踏まえて、政策提言を行うことが目的となります。プロジェクト・ペーパーで特定の政策課題について深く研究することは、実務家としての能力を飛躍的に高めることにつながるでしょう。

## 公務員養成コース Q & A

- Q 学部を卒業した後に公務員を再受験することを考えていますが、公務員養成コースに進学するメリットがあるのでしょうか？
- A 再受験で内定を得るためには、入念な計画と強い意志が必要になります。本コースでは、教員の指導のもと、志を同じくする仲間達と切磋琢磨して学び続けることができます。また、より専門性の高い知識を身に付けていく過程で修士号を取ることができます。
- Q 公務員予備校とはどのような違いがあるのでしょうか？
- A 本コースでは、合格のための受験テクニックの指導に偏るのではなく、試験問題の背景にある理論や判例について学ぶことで、より理解を深めることができます。また、公務員として働き始めた後に必要となる知識や能力を磨くことができます。
- Q 大学院に進学すると、学費等の経済的負担がかかってしまうのが心配です。
- A 本学の大学院では、学生の経済的負担を減らすために、各種の奨学金制度を用意しています。また、本学独自の奨学金もありますので、経済的負担を抑えることができます。
- Q 3年次入試の制度があると聞いたのですが？
- A 学部3年生の時点で大学院への進学を希望する場合には、3年次に春季試験(2月実施)を受験することができます。合格すると、大学院への入学を1年延期して、学部4年生の時に大学院の授業を先取り履修することができます(3年次合格者先取り履修制度)。学部卒業後に大学院に入学してからは、1年間で修了を目指すこともできます(早期修了)。

詳細は左ページ「学部3年生の合格後の選択肢 ~ 飛び入学と先取り履修 ~」をご参照下さい。

## 学部3年生の合格後の選択肢 ~ 飛び入学と先取り履修 ~

学部3年生が「一般入試」「学内成績選考入試」「学内論文選考入試」のいずれかに合格した場合、2つのコースのどちらかを選べます。

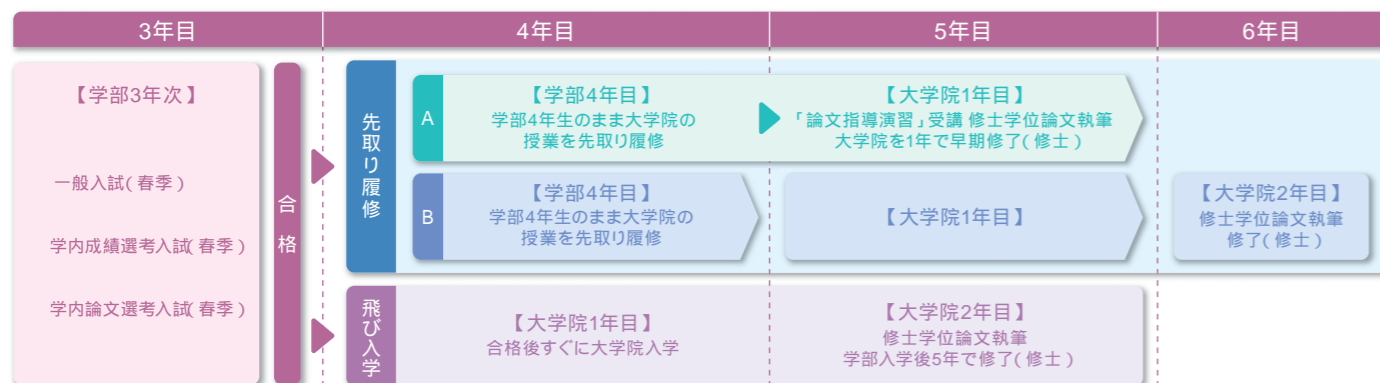
### 先取り履修

合格後に学部4年生のまま大学院の授業を先取り履修し、1年後に学部を卒業して大学院に入学。

- A 指導教員と相談の上、修士1年目に残りの修了単位を修得、論文指導演習を受講し修士学位論文(修士論文またはプロジェクト・ペーパー)を提出し合格すれば、1年で早期修了することもできます。
- B 通常の2年間の大学院博士前期課程の教育を受けて修了することもできます。

### 飛び入学

学部卒業を待たずに合格後すぐに大学院に入学し(飛び入学)、2年間の大学院博士前期課程の教育を受けて、(学部入学から5年間で)修士の学位を取得できます。



## 教員メッセージ

Message



Kawai Toshiki

### 自らの「答え」を究めよう

IOT(Internet of Things)は私たちの生活にかなり浸透してきていますし、人工知能やロボットの研究や実用化の進展も目覚ましいものがあります。他方、これらは私たちの生活に少なくない変化をもたらすだけに、これらにかかわる法とその研究の重要性は今後いっそう高くなります。「電波法制・医療法制・道路交通法制等々によるこれらの促進と規制はどうか」、「これらを活用した防災・減災型のまちづくりはどうか」、「技術革新を進めつつ個人情報保護を貫徹するにはどうすべきか」……etc. 「IOT・人工知能・ロボット等の現代技術に対して法はどのように向き合うべきか(向き合えるか)」という問いへの解答の探求は、まだまだ途上にあります。

法学の世界では、このように「解決」され

ていない「問題」や日々生じつづけるさまざまな「問題」を「解決」するため、多様なアプローチから自らの「答え」を導き出すことが求められますし、このことこそ法学の醍醐味であるといえます。

大学院とは学究の場です。そして、大学院での学究とは、それまでの学問的な積み重ねに基づいて、自らの力で「問題」を発見してこれを「解決」に導けるような「答え」を示すことであるように思います。

とりわけ、法学研究科では、公務員として必要な能力を身に着け、修了後には実際に公務員として活躍することを目標とする方に向けて、令和2年度から新たに公務員養成コースを設置しました。学究の成果として得られた自らの「答え」を公務員の立場で実現することができるよう、一緒に頑張っていきましょう。

法学研究科 法学専攻 教授 川合 敏樹

# 修了までのプロセス

【通常、2年修了の場合】

## 修士1年目

大学院入学(4月)

- プロジェクト・ペーパー検討開始
- 公務員試験受験(1年目)

※修士1年目には、実践研究科目を履修して受験対策に励むと同時に、指導教員の指導の下、プロジェクト・ペーパーの検討も始めます。(修士1年目に公務員に内定した場合には、1年修了も可能です。)

## 修士2年目

- 公務員試験受験(2年目)
- 論文指導演習
- プロジェクト・ペーパー執筆

※修士2年目には、公務員試験を受験しつつ、プロジェクト・ペーパーの完成を目指します。修了単位(30単位)を修得して、プロジェクト・ペーパーが完成すれば、修了となります(修士号授与)。

## 大学院修了

※実践研究科目を履修することで、公務員試験の対策をしながら、修了要件を満たすことができます。

公務員へ

## 学部4年目

秋季試験合格(9月末)

- 先取り履修(後期)
- プロジェクト・ペーパー検討開始

※秋季試験合格者は学部4年生後期に大学院の科目を「先取り履修」することができます。先取り履修した科目は大学院の修了単位として認定されます。また、プロジェクト・ペーパーの検討も始めます。

## 修士1年目

大学院入学(4月)

- 公務員試験受験(1年目)
- プロジェクト・ペーパー執筆

※大学院入学後は、公務員試験受験対策を進めつつ、プロジェクト・ペーパーの完成を目指します。修了単位(30単位)を修得すれば1年間で修了することも可能です。

## 大学院修了

※実践研究科目を履修することで、公務員試験の対策をしながら、修了要件を満たすことができます。

公務員へ

【4年次秋季試験合格・1年修了(4年次合格者先取り履修制度)の場合】

# 在学生・修了生メッセージ

Message



## 新史料公開で研究が進む象徴天皇制研究に寄与したい

國學院大學大学院 法学研究科 博士前期課程 修了 友樹  
法学研究科 法律学専攻 博士後期課程 在学

大学3年生で始まったゼミで、高校までとは違う「勉強」の面白さや、一つのテーマについて議論することの楽しさを知り、大学4年間では満足できず大学院進学を決めました。

現在私は、戦後における昭和天皇と政治の関係について研究しています。日本国憲法により「象徴天皇」は国政に関与することはできなくなりましたが、昭和天皇は、戦前とは異なったかたちで政治にかかわりつづけようとした。それは一体なぜなのか。どうして可能だったのか。平成に生まれた私なりの昭和天皇像を模索しています。

本学大学院を志望した理由の一つは研究環境が整っていることです。160万冊以上の蔵書数を誇る

図書館と大学院生のみが使用できる研究室があり、研究に専念できる環境が整っています。加えて、都心にキャンパスがあるため、国立国会図書館をはじめ各資料館へのアクセスも容易です。もう一つは親身になって研究指導をして下さる先生方の存在です。指導教員や所属する研究科のみならず、他専攻の講義も受講できるため、幅広く指導を受けることが可能です。

将来は研究者の道を志しています。私が専門とする昭和天皇・象徴天皇制研究では、近年新史料が公開され、新しい研究が蓄積されつつあります。その成果を享受しつつ、私なりの昭和天皇像を提示し、当分野に資することができればと思います。

## 実務経験を取り入れ、学習支援制度の研究を深めたい

國學院大學 法学部 法律学科 卒業  
法学研究科 法律学専攻 公務員養成コース 博士前期課程 修了 / 狭山市役所 勤務 作山 優衣

元々就職予定で民間企業から内定をいただきましたが、もっと研究したいと思っていたこと、公務員も視野に入れていたことから、大学院へ進学いたしました。

私は「貧困家庭の子どもに対する学習支援」を研究テーマとしています。学部時代に行政法の演習に所属しており、以前から学力と収入の関係に興味があったためこの主題を選びました。「貧困の連鎖」という言葉をキーワードに、行政の役割や非認知スキルといった知見を取り入れながら、実際に行政が行っている貧困家庭の子どもに対する居場所政策という形の学習支援制度について実例を取り上げて考察しました。

本学大学院の法学研究科は少人数なので、集中して講義を受けることができる上に、自分のペースで集中して研究に取り組むことができました。また、公務員養成コースは同志の集まりだったので、同期に相談したり皆で励ましあうことができたのも心強かったと思います。先生方も親切に相談に乗ってくださるので、安心して研究を進めることができました。

希望する行政の現場に就職することができ、今は新しい生活に馴染むことで精一杯ですが、ゆくゆくは修士論文を書き上げた際にまだ研究の余地があると感じた部分を、実務経験を取り入れて研究を深めたいと考えています。



※令和8年4月現在。

## 公務員養成コースでの学びと挑戦(法学研究科座談会・2023年12月実施)

法学研究科公務員養成コースでは特色ある学びにより、学生の成長を促す学修がなされ、積極的な就職活動を結んでいます。本座談会では所属学生の声を通して本コースの学びと就職活動を中心に、みなさんの意見や感想を聞いております。公務員養成コースへの進学を考えている方は、ぜひご参考にしてください。

### 公務員コースでの学び

司会 それでは、大学院ではどのように学びましたか、そして、特に有益だった科目について教えてください。

川内君 はい、大学院では修士1年目に試験対策を進めまして、2年生になると試験対策と同時にプロジェクトペーパー執筆と面接対策を行いました。特に役立ったのは「公共政策演習」の授業でした。現役公務員やOB・OGの教員と一緒にディベートの練習を通じて、論理的思考能力や意思伝達力が向上しました。

柿本君 僕の場合は1年修了を目指していたので、入学してから試験までの2ヶ月間は問題集や過去問などを集中的にこなしていました。特別な対策はしませんでした。やはり「公共政策演習」や「キャリアプランニング」といった実務家教員の科目が役立ちました。特に、荻野先生が担当されている「キャリアプランニングA」では各省庁の現役官僚から話を聞くことができたので、志望動機を固める上で大変役に立ちました。

山村君 予備校のテキストや問題集、学生研究室の資料を活用しながら、筆記試験対策をしていました。憲法や行政法関係の「実践研究科目」では試験対策もしていたのですが、それらだけではどうしても学習量が足りないため、自分で勉強することも不可欠でした。僕の場合も「公共政策演習」が特に役立ち、現役公務員からの実務的な知識を得ることができました。公務員になった後のスキルが身に付きまして、このことが面接試験の合



参加者(左から、山村君、河内君、柿本君)。終始、和やかな談話会となりました。

格につながったと思います。

司会 なるほど、実務家教員による科目は公務員養成コースの中核科目ですので、それが役に立っているということで嬉しいですね。公務員を目指す学生たちに、国や地方自治体で最先端の業務を担っている実務家と交流してほしいという願いから、これらの科目を開設しました。ここでの学びは、就職活動の際にも実務に就いた後にもきっと役立つはずですよ。

それでは、これまで学んできて、公務員養成コースの……

座談会の全文はこちらをご覧ください。▶



### 法学研究科 担当教員

氏名	職名/学位	専門分野	主な講義・演習科目	講義・演習テーマ
長又 高夫	教授/博士(法学・國學院大學)	法典編纂史・法思想史	日本法制史研究A・B(講義)	分国法を講読する
俣 剛	教授	英米法、イギリス法制史	外国法研究A・B(講義)	英米の公文書を読む
植村 勝慶	教授	憲法	憲法研究B(講義)	憲法の基本判例の検討
福岡 英明	教授/博士(法学・中央大学)	憲法	憲法研究A・I(講義)	憲法
平地 秀哉	教授	憲法	憲法研究A(講義)	違憲審査制の研究
高橋 信行	教授/博士(法学・東京大学)	公法(行政法)	行政法研究B(講義)	行政法判例研究
川合 敏樹	教授	行政法、環境法	行政法実践研究(講義)	行政法・環境法の文獻・判例研究
宮内 靖彦	教授	国際法、国際組織法	国際法研究A(講義)	国際法の問題の分析方法
甘利 航司	教授/博士(法学・一橋大学)	刑法、刑事政策	刑法研究B(講義)	犯罪成立の主観的要素
中川 孝博	教授/博士(法学・一橋大学)	刑事訴訟法	刑事訴訟法研究A・B(講義)	刑事訴訟法の最先端
高内 寿夫	教授/博士(法学・國學院大學)	民法	法律学特許研究(演習)	少年法
佐藤 秀勝	教授/博士(法学・一橋大学)	民法	民法研究A(講義)	民法・財産法の研究
一木 孝之	教授/博士(法学・早稲田大学)	民法	民法研究B(講義)	民法財産法の裁判例及び判例研究
岡田 康夫	教授	民法	民法研究A・B(講義)	民法の諸制度・特別法・判例等
廣瀬 美佳	教授	民法学	法律学特許研究(演習)	医事法
佐古田真紀子	教授	民事訴訟法	民事訴訟法研究A(講義)	民事訴訟法の論点につき、判例・文獻を精読した分析
鈴木 達次	教授	商法	商法研究B(講義)	商法争点研究
森川 隆	教授	商法、会社法	商法研究A・B(講義)	会社法事例研究
中曽根 玲子	教授	商法	商法実践研究A(講義)	金融商品取引法
本久 洋一	教授	労働法	労働法研究A(講義)	労働者・使用者の権利義務論の研究・労働者規則の複数性(マルチチルド)の問題
藤嶋 亮	教授/博士(法学・東京大学)	政治学、比較政治	政治学研究A・B(講義)	比較政治学の主要な概念やアプローチ、理論
坂本 一登	教授/法学博士(東京理科大学)	日本政治史	日本政治史研究A・B(講義)	明治初期の行政と立法
羽田 真司	教授	政治思想史、政治哲学、政治理論	西洋政治思想史研究A・B(講義)	Hannah Arendt『The Origins of Totalitarianism』を読む
福田 浩	教授/博士(政治学・東京理科大学)	行政学	行政学研究A・B(講義)	行政・地方自治研究の最前線
安田 恵美	教授/博士(法学・大阪市立大学)	刑事政策	刑事政策研究A・B(講義)	犯罪学理論の基礎を学ぶ
山本 健太郎	教授/博士(学術)(法学関係)	政党システム、政界再編、日本政治	政治学研究A・B(講義)	現代日本政治分析の諸相



## 経済・経営・会計・税法... 経済をとり巻く全領域をカバー

### 経済学研究科 教育研究上の目的と方針(3つのポリシー)

#### 経済学研究科の教育研究上の目的

経済学研究科は、学部教育を基礎とし、経済及び経済学に関する、専門的知識と能力をもつ職業人、及び豊かな学識と創造的な研究能力をもつ研究者を育成することを目的とする。

#### 経済学研究科の博士課程教育実施方針(3つのポリシー)

##### 学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)

博士前期課程においては、学部教育における経済と経済学に関する基礎力と日本経済に関する知見を踏まえ、経済学、経営学、会計学または税務に関わる専門分野について十分な学力があると認定された者に対して、修士の学位を授与する。

博士後期課程においては、博士前期課程で求められた最先端の専門的知識に加えて、理論的革新や新しい知見の発見などの独創的研究を行い、今後、専攻分野において研究・教育する能力を身につけたことを示すことができる成果をあげた者に対して、博士の学位を授与する。

##### 教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)

博士前期課程においては、指導教員が担当する授業科目および論文指導を通じて、自己の専門領域における専門的知識を学ぶことと並行し、自己の専門領域の関連諸領域について授業科目の履修を通して学ぶこと。さらにアカデミック・コース、キャリア・コースの各コースを選択した者は、当該コースの選択必修科目から所定の単位数の科目を修得すること。

博士後期課程においては、指導教員が担当・指定する授業科目を修得するとともに、指導教員のもとで研究指導を受けること。

##### 入学者受入れ方針(アドミッション・ポリシー)

博士前期課程、博士後期課程ともに、本学の建学の精神、そして本研究科が定める学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)と教育課程編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)を十分に理解して、以下の資質・志向をもった者を受け入れる。

博士前期課程においては、学部教育における経済と経済学に関する基礎力と日本経済に関する知見に基づいて、以下いずれかの志向を持った者を受け入れる。

アカデミック・コースでは、博士後期課程への進学を目指す者や、博士前期課程修了後に専門的で深い学識を必要とする職種を目指す者。

キャリア・コースでは、博士前期課程を修了し、税理士などの資格取得を目指す者。

博士後期課程においては、博士前期課程における経済と経済学に関する専門的知見に基づいて、博士の学位を取得し、課程修了後は研究職を目指す者。

### 税理士試験税法2科目免除に対応したカリキュラムと指導体制 社会人でも学べる土曜日を中心とした講義で多くの修了生を輩出

#### 修士の学位等取得による研究認定申請が行える講義・指導

税理士試験は、税法3科目と会計学2科目の5科目すべてに合格する必要があります。

しかし、大学院博士前期課程を所定の単位を修得して修了し、その修士の学位等取得に係る研究について国税審議会の認定を受けた場合、税法の2科目に合格したものとみなすとされています。

本研究科は.....

税法に属するカリキュラムを準備

税法に属する科目等の研究論文の作成等に対する指導

土曜日を中心とした講義

などにより、大学卒業後引き続き勉強される方のほか、社会人の方の学びも支援する体制を整えています。

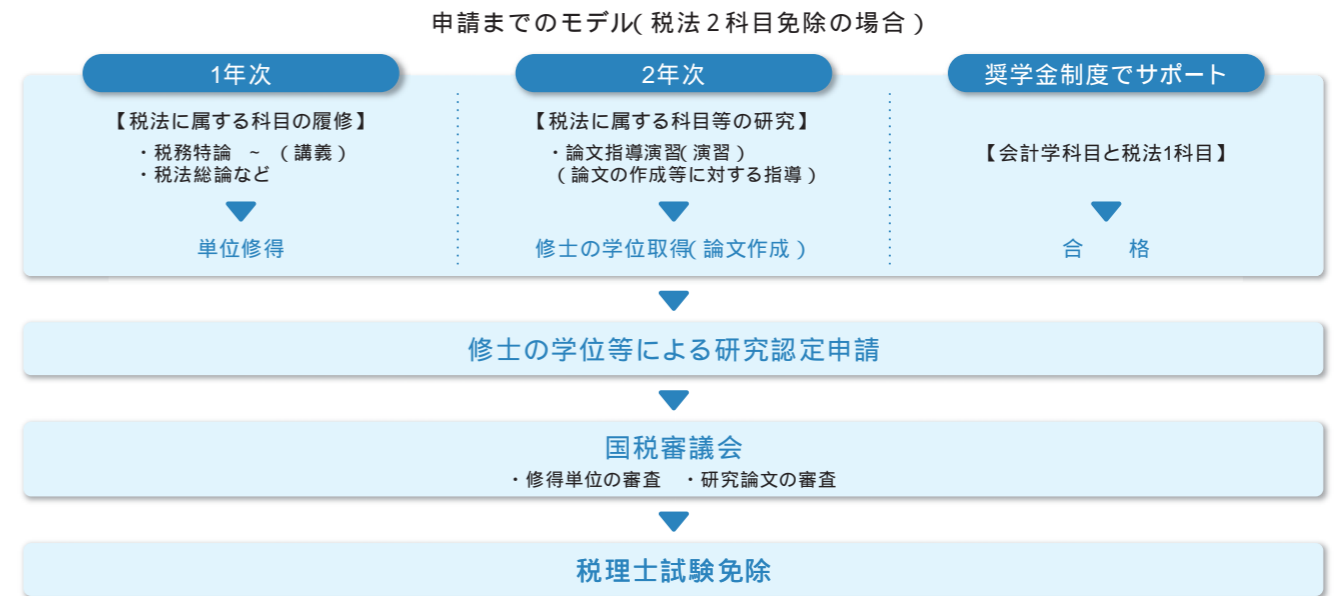
多くの方が「税法2科目免除」を得て、実社会で活躍されています。

#### 充実した奨学金制度を準備

大学院に通いながら、同時に税法科目や会計科目合格のために専門学制度を準備しています。この奨学金は、「大学院奨学金制度」や「日本学生校へ通う学生も多くいます。國學院大學大学院では、このためのサポートと支援機構奨学金(P4参照)と併用することもできます。して、一定の要件のもと指定する外部専門学校の受講を支援する奨学金

#### 働きながらも履修等が可能な土曜日を中心とした講義

### ..... キャリア・コースで「税理士」を目指す .....



## 在学生メッセージ

Message



### 経営学的視点を深め、キャリア形成につなげたい

國學院大學 経済学部 経済学科 卒業  
 経済学研究科 経済学専攻 博士前期課程 在学 **青木 俊哉**

学部での学びを通して専門性をさらに深めたいという思いが強まり、将来のキャリアを主体的に切り拓くために大学院進学を決意しました。

研究テーマは現在検討を進めている段階ですが、産業財市場のマーケティングや、『行為の経営学』における環境の捉え方に強い関心を持っています。

本学大学院は少人数で、先生方との距離が近く、きめ細やかな指導を受けられる点が大きな魅力です。授業は先生と一対一で進められるため、疑問点を徹底的に質問でき、自分の資料も丁寧に見ていただけます。その過程で、自分では気づけなかった間違いや解釈の誤りを指摘していただけることもありました。また、先生方と授業内容にとどまらず幅広い話題について議論することもあり、この大学院

ならではの良さだと実感しています。

将来の目標は、これからの学びや経験を通じてより具体的になっていくと考えています。そのうえで、その時々自分が熱中していることや、置かれた環境の中で自分なりに考え行動できる人間でありたいと思っています。そうした姿勢を育てるために、大学院では物事を捉えるための概念や視点を身につけることを目指しています。

私にとって経営学は、現実の問題に直接当てはめる解決策というより、出来事を理解し構造を把握するための視点を与えてくれる学問です。

税法の基礎知識の修得から論点の解明・論文作成まで職業会計人への仲間入りを國學院から

「税」は私たちにとって非常に身近な存在です。所得税、法人税や消費税だけでなく相続税、贈与税など新聞紙上や雑誌などに「税」の情報は溢れています。このことは、「税」が、今日、私たちの経済活動のあらゆる局面に影響を与えていることの証左にほかならず、また、会社経営者に限らず、一般の方々であっても重要な経済取引を行う場面では、それによって税負担が生じるか否かなどの「税」の問題を考慮した意思決定が求められる機会が多くなってきていることを示しています。

このような機会において「意思決定」をしなければならない多くの方々は、最善の意思決定をするために、税理士などの職業会計人に対して、様々な相談をし、的確な助言を求めることとなります。しかも、近時における経済取引の複雑化、国際化をはじめ、企業の社会的責任を求める動きなども併せて考えると、職業会計人が果たす役割は、今後、更に重要なものとなるでしょう。

そのため、職業会計人には、税法を正しく理解した上で、その他の関係法律や経済取引に係る情報なども収集・整理して、自らの見解をその根拠とともに的確に提示する能力が必要とされるのです。

キャリア・コースでは、皆さんが職業会計人として活躍

するための「考える力」を國學院で養えるように、所得税法、法人税法、相続税法や国際課税などに関する基礎知識を修得するとともに、学説や裁判例等の検討を通じてこれら所得税法等の各論点を解明する機会を提供します。もちろん、皆さんの一番の関心事である論文についても、テーマ決定から作成・完成まで確実に指導していきます。

職業会計人を目指す意欲ある皆さんの入学を、心よりお待ちしております。



経済学研究科 経済学専攻 教授 原 省三 Hara Shozo



税法の研究を通じ、税への理解を社会に広めたい

法政大学 文学部 日本文学科 卒業 経済学研究科 経済学専攻 博士前期課程 修了 佐々木 優夏



勤務先の会計事務所の所長から大学院進学を勧められ、学問として税法を学ぶことは自分にとって大きな経験になると考え、進学を決めました。

研究テーマは「法人税法における過大役員給与の損金不算入規定に関する一考察」としました。過大な役員給与の損金算入可否については、これまで多くの裁判例が存在します。しかし、適切な金額を算定するための要素の一部は納税者が把握できないという問題点が指摘されてきました。アメリカでも同様の裁判例が見られることから、日米の判断基準を比較し、日本の制度に取り入れられる部分がないかを検討しました。

本学大学院は講義が土曜日に集中しているため、

仕事と両立しやすい点も魅力です。私と同じように会計事務所でも働く同期や先輩・後輩と情報交換ができる環境もあり、国税庁OBの教授陣からは課税庁側の視点や考え方、当時の貴重な経験談などを伺うこともでき、大きな刺激となりました。

私は、お客様の事業面だけでなく、相続などのプライベートな相談にも寄り添える存在でありたいと考えています。税金は本来どの人にも身近なものです。わかりづらく、マイナスなイメージを持たれている印象があります。近年は高校での金融教育が拡充されていることもあり、将来的には税金についても幅広い世代に理解を広げられるような活動に取り組んでいきたいと考えています。

租税法を究め、実務に寄り添う頼られる税理士へ

慶應義塾大学 経済学部 経済学科 卒業 経済学研究科 経済学専攻 博士前期課程 在学 田中 友里



中小企業経営者を取り巻く環境が複雑化する中、適切な助言ができる税理士となるには、税法を体系的に研究し、解釈・適用する力が不可欠だと感じたことが大学院進学のかっけです。

論文では、相続税法9条(みなし贈与)の射程について取り組んでいます。相続税法9条は、解釈次第では対象が過度に広がる可能性がある一方、同条の法令解釈通達である相続税法基本通達9-2(同族会社に関する取扱い)に依拠すると、逆に対象を狭めすぎてしまう懸念もあります。そこで、9条の射程を多角的に検討し、特に法人を介した取引によって生じる贈与とみなされるケースについて、より妥当な解釈のあり方を探究したいと考えています。

本学大学院では、充実したカリキュラムのもと租税法を体系的に学ぶことができます。特に1年後期の判例研究は、税法解釈の基礎を身につけるうえで大きな助けとなりました。論文指導でも丁寧な個別指導を受けられ、安心して研究に取り組んでいます。また、異なる背景を持つ仲間と学ぶことで刺激を受け、モチベーション向上にもつながりました。

今後、税務を取り巻く環境がさらに多様化・複雑化する中で、条文の趣旨や解釈を踏まえ、多方面からクライアントに提案できる税理士を目指しています。大学院で得た知識を基盤に経験を積み重ねながら、幅広い税務相談に寄り添い、信頼される専門家として貢献していきたいと思っています。

経済学研究科 担当教員

Table with 5 columns: Name, Title/Position, Specialization, Main Lectures/Subjects, and Lectures/Subjects. Lists various faculty members and their research areas in economics and law.

令和8年4月現在。

講義・演習科目は変更になる場合もあります。

## キャリアサポート

大学院修了後の進路として、教員や専門職以外にも、一般企業や公務員への就職を目指す人も多くいます。キャリアサポート課では、企業セミナーや学内企業説明会等を開催する一方、就職活動の悩み全般から模擬面接等の実践対策まで幅広くアドバイスしています。一般企業では、大学院の修了予定者も「新卒」として扱われますので、学部学生と同様にキャリアサポート課(百周年記念館1階)を活用することをお勧めします。



**就活スタートガイド**  
4月  
本格的な就職活動の開始に向けて、効率的な動き方のアドバイスに加え、就職情報サイトの紹介などを行います。

**模擬面接指導会**  
1年次対象  
大手企業の人事担当者を迎え、本番に近い環境で個人・集団面接の実践的トレーニングを行います。

**合同企業セミナー**  
1年次対象  
各業界を代表する大手・優良企業の採用担当者が、業界および企業の説明を行います。学内で効率よく仕事理解ができます。

**学内合同企業説明会**  
2年次対象  
本学の学生を採用する意欲の高い企業の担当者とお話できる機会です。新たな企業と出会うことができます。

## 就職実績

令和8年4月現在。

**文学研究科** 公務員(都道府県、市区町村、教育委員会、自衛隊)、団体職員(一般職、研究職)、宗教法人(神社)、学芸員、司書、教員(大学、高等学校、中学校)、一般企業(教育、IT、エンターテインメント、製造、空間デザイン、人材派遣、不動産) など

**法学研究科** 団体職員(一般職)、司法書士法人、教員(高等学校)、一般企業(教育、出版) など

**経済学研究科** 税理士法人、会計事務所 など

働きながら、学びなおしを応援!

## 教育訓練給付制度 対象講座のご案内

### 教育訓練給付制度とは?

厚生労働省が実施する制度です。働く社会人が“もう一度学びたい”という意欲を応援する制度で、大学院での学びにかかる費用の一部が支給されます。修了後に申請すると、**入学金 + 初年度授業料の最大20%(上限10万円)**が戻ってくるチャンスがあります!

### 國學院大學大学院で「給付制度」の対象となる専攻は?

研究科名	専攻名	対象課程	給付対象期間
文学研究科	文学専攻	博士前期課程	令和7年4月1日～ 令和10年3月31日
文学研究科	史学専攻	博士前期課程	
経済学研究科	経済学専攻	博士前期課程	令和8年4月1日～ 令和11年3月31日
文学研究科	神道学・宗教学専攻	博士前期課程	
法学研究科	法律学専攻	博士前期課程	

いずれも「一般教育訓練給付制度」の指定講座です。

### こんな方におすすめ!

学び直してスキルアップしたい社会人  
教育現場・文化施設でのキャリアアップを目指す方  
将来的に研究・教育職を希望する方  
育児・介護と両立しながら学びたい方(長期履修制度あり)

### ご利用の流れ(かんたん3ステップ)



### Q & A

- Q** 誰でも使える制度ですか?  
**A** 雇用保険に一定期間加入していた方(在職中・離職後)なら利用可能です。詳細はお近くのハローワークにご確認ください。
- Q** いつ申請するのですか?  
**A** 対象講座の修了後、1ヶ月以内にハローワークに申請してください。
- Q** 入学前に申請する必要はありますか?  
**A** 入学前の申請は不要ですが、制度の適用条件を確認するために事前にハローワークへの相談をおすすめします。

### 詳しくは

厚生労働省 教育訓練給付制度  
[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou\\_roudou/jinzaikaihatsu/kyouiku.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/jinzaikaihatsu/kyouiku.html)



一般教育訓練明示書(各専攻別PDF)  
大学公式HPよりダウンロード可能

制度のご相談は國學院大學大学院事務課まで!

## 入学定員と収容定員

研究科名	専攻名	博士前期課程		博士後期課程		総収容定員
		入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	
文学研究科	神道学・宗教学専攻	20	40	4	12	52
	文学専攻	30	60	10	30	90
	史学専攻	40	80	10	30	110
	計	90	180	24	72	252
法学研究科	法律学専攻	10	20	5	15	35
経済学研究科	経済学専攻	10	20	5	15	35
合計		110	220	34	102	322

## 研究環境

本学では、大学院と研究開発推進機構が連携して、特色ある研究の充実と研究成果の発信を行っています。大学院学生も共同研究プロジェクトに参画するなど研究の現場に携わる機会を創り出し、高度な研究能力の向上を図っており、これまでに多くの若手研究者を輩出しています。

### 令和7年度「國學院大學特別推進研究助成金」採択課題一覧

No.	研究代表者 (職位・所属)	研究課題名
1	水口 学 (教授 文)	最適な計算と統辞構造の解釈に関する研究
2	赤松 加寿江 (准教授 文)	17,18世紀伊仏の歎待インフラとしてのヴィラと狩獵地の基礎研究
3	山崎 雅稔 (准教授 文)	日韓の歴史教育・歴史教材開発のためのプラットフォーム構築に向けた基礎的研究
4	寺本 貴啓 (教授 人)	CBTの大規模学力調査における認知診断モデルの適用に関する研究
5	石垣 悟 (准教授 観)	深層画像識別モデルを利用した民具の系統分析の研究
6	稲葉 あや香 (助手 観)	アメリカ日系社会のトランスナショナリズム発足の歴史的経緯に関する研究
7	黒本 剛史 (助手 観)	町並み保存地域で公有化された歴史的建造物の用途類型に着目した地域波及効果の研究
8	山島 有喜 (助手 観)	「聖」と「公」の二重性からみた「商業施設」屋上社寺の空間的・社会的特性

### 令和8年度 大学院特定課題研究

No.	研究代表者 (職位)	研究課題
1	浅野 春二 (教授)	神社漢文碑の調査研究
2	野中 哲照 (教授)	『平家物語』諸本のテキストデータ化および特殊表記・特殊用語・語法の研究
3	藤澤 紫 (教授)	浮世絵が輸出工芸品に与えた影響 - 在外コレクションの図像検討を中心に -
4	大石 泰夫 (教授)	民俗芸能の継承・展開・資源化比較の基礎的研究



No.	事業区分	研究科目	研究代表者(職位・所属)	研究課題番号	研究課題名
1	補助金	学術変革領域研(A)	小手川 正二郎 (教授) 文	25H01231802	【計画研究】習慣化する身体・自覚化する身体/顔身体学の倫理
2	補助金	基盤研究(S)	谷口 康浩 (准教授) 文	21H04983	半定住狩猟採集民の社会組織と葬制: 骨考古学先端技術との連携による先史社会の復元
3	補助金	基盤研究(A)	吉見 俊哉 (教授) 観	23H00057	上演する地域: (まちづくり型) 芸術祭と(自己・空間・時間) 意識の変容
4	基金	基盤研究(B)	三井 はるみ (教授) 文	23K25332	方言昔話資料のデータベース化と言語研究への活用
5	基金	基盤研究(B)	松本 久史 (教授) 神	24K00011	近世神道の「復古・復興」と「由緒記」- 京都稻荷社を中心として -
6	基金	基盤研究(B)	石本 東生 (教授) 観	23K20404	EUによる域内観光振興に関わる資金支援政策の研究 - ギリシャを事例として -
7	基金	基盤研究(B)	十代田 朗 (教授) 観	23K20262	観光振興を考慮した都市の持続的発展を表現する概念モデルの構築
8	基金	基盤研究(B)	西村 幸夫 (教授) 観	23K22937	歴史文化遺産の保存と活用に資するイコモス「遺産影響評価」の拡張と実装に関する研究
9	基金	基盤研究(C)	深谷 優子 (教授) 文	20K03356	協同的な推敲活動におけるピアの匿名性および識別性の効果に関する教育心理学的研究
10	基金	基盤研究(C)	木原 志乃 (教授) 文	21K00095	古代ギリシア医学思想における病いの語り - エピデミアイをめぐる環境と倫理の問題
11	基金	基盤研究(C)	金杉 武司 (教授) 文	22K00017	多面的多元論の可能性 - 存在論的反自然主義の体系的理論の構築と擁護
12	基金	基盤研究(C)	新藤 透 (教授) 文	24K15661	アジア・太平洋戦時下に於ける図書館の役割 - 「銃後の図書館」
13	基金	基盤研究(C)	多和田 真理子 (教授) 文	23K02143	地方小都市の近代化過程における学校を中核とした文化的ネットワーク構築
14	基金	基盤研究(C)	齋藤 智哉 (教授) 文	24K05668	1920年代から1940年代前半の学校教育における「修養」と「錬成」に関する基盤的研究
15	基金	基盤研究(C)	小手川 正二郎 (教授) 文	25K03529	ジェンダーと人種の現象学: 日本における独自の展開を目指して
16	基金	基盤研究(C)	加藤 久子 (准教授) 神	25K03602	世俗化とグローバル化のカトリック教会への影響: 1960年代ポーランドを事例として
17	基金	基盤研究(C)	中川 孝博 (教授) 法	24K04595	供述の信用性評価に関する公共的基準の構築
18	基金	基盤研究(C)	甘利 航司 (教授) 法	24K04596	GPS型電子監視を使用した保釈制度の比較法的研究
19	基金	基盤研究(C)	安田 恵美 (教授) 法	25K04816	ヴァルネラブルな受刑者等に対する意思決定支援の実現に向けた理論的実証的研究
20	基金	基盤研究(C)	齊藤 誠 (教授) 経	22K01389	資産課税における資産格差差正と経済成長の両立について
21	基金	基盤研究(C)	鈴木 智之 (教授) 経	22K01697	産業組織における労働者のパーソナリティ構造の解明
22	基金	基盤研究(C)	細谷 圭 (教授) 経	21K01507	COVID-19等の経済的ネガティブイベントと時間選好率との関係性の探究
23	基金	基盤研究(C)	尾田 基 (教授) 経	24K05060	新事業合法化プロセスにおけるエビデンス収集問題の探求
24	基金	基盤研究(C)	鈴木 智之 (教授) 経	25K05234	副業進歩社会における「小さな起業家」が独自に有する認知・非認知特性
25	基金	基盤研究(C)	野澤 純子 (教授) 人	21K02716	保育における障害の可能性のある外国人幼児の早期把握と支援に関する研究
26	基金	基盤研究(C)	青木 康太郎 (教授) 人	22K11684	自然体験活動におけるリスクマネジメントモデルの構築に関する研究
27	基金	基盤研究(C)	林 貢一郎 (教授) 人	23K10594	エクオールが閉経後女性の骨格筋量および筋機能とそのトレーニング効果に及ぼす影響
28	基金	基盤研究(C)	川田 裕樹 (教授) 人	24K14430	妊娠期間における母体への温熱刺激が子の出生後のエネルギー代謝に及ぼす影響
29	基金	基盤研究(C)	大矢 隆二 (教授) 人	25K14746	離島地域の小・中学校の実態に即した体づくり運動の教材開発
30	基金	基盤研究(C)	夏秋 英房 (教授) 人	25K06031	教育文化としての地域文化の継承と子どもの社会参加過程の研究
31	基金	基盤研究(C)	藤田 大誠 (教授) 人	24K03403	神道・国学の近現代史 - 通史叙述に向けた研究基盤の構築 -
32	基金	基盤研究(C)	神事 努 (准教授) 人	22K11478	投球フォームの個人特性を考慮した上限投球数決定法の開発
33	基金	基盤研究(C)	千野 謙太郎 (准教授) 人	25K14672	管楽器奏者の努力性呼吸の特性と腹筋群の活動に基づくトレーニング器具の開発
34	基金	基盤研究(C)	堀木 美告 (教授) 観	22K12621	新しい観光形態としてのオンラインツアーの課題と可能性に関する研究
35	基金	基盤研究(C)	塩谷 英生 (教授) 観	23K11631	域内循環に貢献する宿泊事業の類型と自治体の支援施策に関する研究
36	基金	基盤研究(C)	米田 誠司 (教授) 観	23K11654	日常との対比からみる「観光食」時空間再埋め込みプロセスの研究
37	基金	基盤研究(C)	金 今善 (准教授) 観	22K01931	韓国ソウル市における住民主体のまちづくりの展開とローカル・ガバナンスに関する研究
38	基金	基盤研究(C)	潘 夢斐 (助教) 観	25K05541	地域史展示空間に関する総合的研究: 社会学の視座から
39	基金	基盤研究(C)	星野 靖二 (教授) 研	24K03402	日本の近現代宗教学史叙述の再検討: キリスト教史と仏教史の叙述を中心に
40	基金	若手研究	手塚 雄太 (准教授) 文	23K12279	戦前日本の選挙運動と政治家家族
41	基金	若手研究	小川 亮 (准教授) 法	22K13280	行政裁量審査基準論の定立
42	基金	若手研究	山下 裕樹 (准教授) 法	25K16520	不作為による名誉毀損罪の成否とデジタルプラットフォーム事業者の刑事責任の範囲
43	基金	若手研究	町田 樹 (准教授) 人	21K12872	ダンスとスポーツの領域横断的研究: 芸術的スポーツの史的記述と批評理論の構築
44	基金	若手研究	佐藤 克士 (准教授) 人	22K13696	「危機社会」に対応した主権者教育としての社会科防災学習カリキュラムに関する研究
45	基金	若手研究	町田 樹 (准教授) 人	25K16111	フィギュアスケートを中心とするクロスジャンルの歴史と美学
46	基金	若手研究	前田 麦穂 (助教) 人	24K16616	高度経済成長期における教員採用制度の構造変容に関する実証的研究
47	基金	若手研究	児玉 千絵 (専任講師) 観	21K14322	公共施設と交通結節点の変遷に着目した都市ストックのライフサイクルの解明
48	基金	若手研究	藤井 修平 (助教) 研	23K12021	日本における宗教に関する質問紙調査の収集およびデータベース構築
49	基金	若手研究	川嶋 麗華 (助教) 研	23K12344	死をめぐる技術革新と新たな忌避観念の拡大: 火葬場・葬儀場に関する民俗学的研究
50	基金	若手研究	石山 千代 (准教授) 観	20K14897	地域外主体の受入れと施策連携による廃校活用計画論の構築に関する研究
51	基金	研究活動スタート支援	西山 萌 (助手) 人	25K23281	3歳児保育における「好意」の研究 - 倉橋惣三の保育理論に着目して -
52	基金	研究活動スタート支援	内村 慶士 (助教) 教	23K18984	部下の自律を促進する1on1ミーティングの特徴: 仮説生成と縦断研究による因果推論
53	基金	特別研究員奨励費	長谷川 恵理 (DC2研究員) 文	24K1974	日本における狼イメージの融合と変容
54	基金	特別研究員奨励費	児玉 瑛子 (PD研究員) 研	25KJ0307	インド仏教論理学派における言葉と認識の因果性: 無常性論証の視点から
55	基金	国際共同研究強化(B)	西村 幸夫 (教授) 観	21KK0077	ネパール・ルンビニ地域に広がる古代王国遺跡の保存活用に立脚した地域計画立案

# 140余年に亘り連綿と続く國學院大學の歴史

明治15年 (1882)

國學院大學の母体「皇典講究所」創立。初代総裁は有栖川宮熈仁(たかひと)親王。場所は東京・麹町区飯田町(現・千代田区飯田橋)。9月1日、授業開始。11月4日、開校式。



皇典講究所飯田町校舎 (明治末期)

明治23年 (1890)

7月、「皇典講究所」を母体として、国史・国文・国法を攻究する教育機関「國學院」が誕生(本科3年・研究科2年)。「國學院」の名前が歴史上初めて登場する。

明治37年 (1904)

4月、専門学校令により専門学校に昇格。「私立國學院」となる(大学部予科2年・本科3年)。

明治39年 (1906)

6月、文部省告示により「私立國學院大學」と改称、大学組織となる。

明治42年 (1909)

明治33年から始まった神職講習会を改め、神職養成部(神職教習科・神職講習科・祭式講習科)を開設。

大正9年 (1920)

4月15日、大学令により大学に昇格。大正9年に認可された大学は、本学の他に、慶應義塾・早稲田・明治・中央・日本・法政・同志社の7大学。

大正12年 (1923)

学生数も増え、大規模な学園拡充計画を5年前から進め、5月には渋谷御料地(現在地)に新校舎が完成。6月、授業を開始。以後、昭和10年代にかけて本学は発展の一途をたどる。



渋谷校舎 (大正時代)

昭和5年 (1930)

5月、神殿の創建・鎮座。

昭和10年 (1935)

大講堂が竣工。



渋谷校舎全景 (昭和10年代)

昭和21年 (1946)

「皇典講究所」を解散し「財団法人國學院大學」を設立。他大学に先んじて男女共学制を採用。

昭和23年 (1948)

新制文学部第一部(宗教学科・文学科・史学科・哲学科)を開設。

昭和24年 (1949)

文学部第二部(文学科・史学科)、政治学部第一部を開設。

昭和25年 (1950)

政治学部第一部を政経学部第一部(政治学科・経済学科)に改める。

昭和26年 (1951)

「学校法人國學院大學」となる。政経学部第二部を開設。大学院日本文学専攻・神道学専攻修士課程を開設。

昭和27年 (1952)

大学院日本史学専攻修士課程を開設。「考古学資料室」を開設(昭和30年の文部省告示で博物館相当施設に指定される)。

昭和28年 (1953)

大学院日本文学専攻・日本史学専攻博士課程を開設。

昭和30年 (1955)

「國學院大學幼稚園教員養成所」を設立。「日本文化研究所」を創設。

昭和31年 (1956)

文学部第一部宗教学科を神道学科へ改称。

昭和33年 (1958)

神道学専攻科(高等神職養成課程)、大学院神道学専攻博士課程を開設。



武田祐吉博士の授業風景 (昭和32年)

昭和37年 (1962)

神奈川運動場を開設、体育関係授業を開始。

昭和38年 (1963)

創立80周年を記念して法学部第一部を開設。「神道学資料室」を開設。

昭和40年 (1965)

法学部第二部を開設。「折口博士記念古代研究所」を設立。その後、「武田博士記念室」(昭和41年)、「河野博士記念室」(昭和45年)を開設。

昭和41年 (1966)

政経学部を経済学部第一部・第二部に改める。

昭和42年 (1967)

大学院法学研究科修士課程・文学部博士課程、第二部神道学科を開設。

昭和43年 (1968)

大学院経済学研究科修士課程を開設(昭和45年に博士課程を開設)。

昭和50年 (1975)

「考古学資料室」を「考古学資料館」と改称。

昭和57年 (1982)

11月4日、高松宮宣仁親王殿下台臨のもと創立100周年記念式典を挙げる。北海道滝川市に「國學院女子短期大学」を新設。

昭和59年 (1984)

100周年記念館が竣工。神奈川運動場に新石川校舎を建設。

昭和60年 (1985)

新石川校舎(現「横浜たまプラーザキャンパス」)完成、授業を開始。

平成3年 (1991)

「國學院女子短期大学」を、男女共学化により「國學院短期大学」に改称。

平成4年 (1992)

横浜たまプラーザキャンパスで、第一部全学部1・2年生全員を対象に授業を開始。

平成8年 (1996)

文学部第一部に文学科を日本文学科・中国文学科・外国語文化学科に改め、経済学部第一部に経済学科・経済ネットワーク学学科、同第二部に産業消費情報学学科を開設。

平成13年 (2001)

法学部と経済学部がフレックス開講制に移行。

平成14年 (2002)

11月4日、三笠宮宣仁親王殿下台臨のもと創立120周年記念式典を挙げる。神道文化学部を開設(フレックス開講制)。21世紀COEプログラムに「神道と日本文化の国学的研究発信の拠点形成」が採択される。

平成15年 (2003)

2月、120周年記念1号館が竣工。

平成16年 (2004)

120周年記念2号館が竣工。

平成17年 (2005)

経済学部経営学学科を開設。経済学部および中国文学科・外国語文化学科・哲学科は7時限制に、日本文学科と史学科がフレックス開講制に移行。

平成18年 (2006)

5月、若木タワー(地上18階、地下1階)が竣工。

平成19年 (2007)

創立125周年。4月、「研究開発推進機構」が発足。「モノと心に学ぶ伝統の智恵と実践」研究事業がORC整備事業に選定(至平成23年)

平成20年 (2008)

3月、学術メディアセンター棟(地上6階、地下2階)が竣工。4月、法学部が7時限制に移行。

平成21年 (2009)

4月、横浜たまプラーザキャンパスに人間開発学部を開設。「教育開発推進機構」が発足。「國學院短期大学」を「國學院大學北海道短期大学部」に改称。9月、3号館が竣工。

平成23年 (2011)

日本文学科が7時限制に移行。

平成24年 (2012)

教職センターが発足。11月4日、創立130周年記念式典を挙げる。

平成25年 (2013)

人間開発学部子ども支援学学科を開設。史学科が7時限制に移行。

平成27年 (2015)

4月、130周年記念5号館(地上3階)が竣工。

平成28年 (2016)

文部科学省私立大学研究ブランディング事業に「古事記」の推進拠点形成 - 世界と次世代に語り継ぐ「古事記」の先端的研究・教育・発信 - が採択(至令和2年度)

平成29年 (2017)

創立135周年。大学院文学研究科と埼玉県埋蔵文化財調査事業団がインターンシップ・プログラムに関する協定を締結。

平成31年 (2019)

3月、総合学修館(6号館、地上2階、地下2階)が竣工。

令和4年 (2022)

創立140周年。4月、横浜たまプラーザキャンパスに観光まちづくり学部を開設。

令和7年 (2025)

5月、創立140周年記念事業の一環として渋谷キャンパスの神殿を造替。旧神殿は横浜たまプラーザキャンパスに移築し、歴史的建造物として保存。

## 進学相談会 / 資料申し込み方法

### 大学院進学相談会

文学研究科・法学研究科・経済学研究科の専任教員が入試説明を行うほか、専攻コースの内容に関する相談に応じます。毎年、この相談会に参加して大学院進学を決意したという学生が多数います。皆さん、奮ってご参加ください。

詳細はホームページでご確認ください。 <https://www.kokugakuin.ac.jp/admission/graduate/p1-1-1-2>



### 大学院 学生募集要項・過去問題 申し込み方法

配送の申し込み 学生募集要項は電子版のみになります。

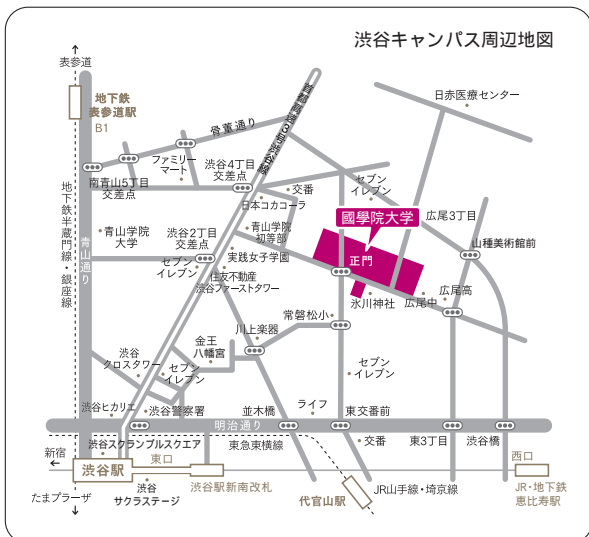
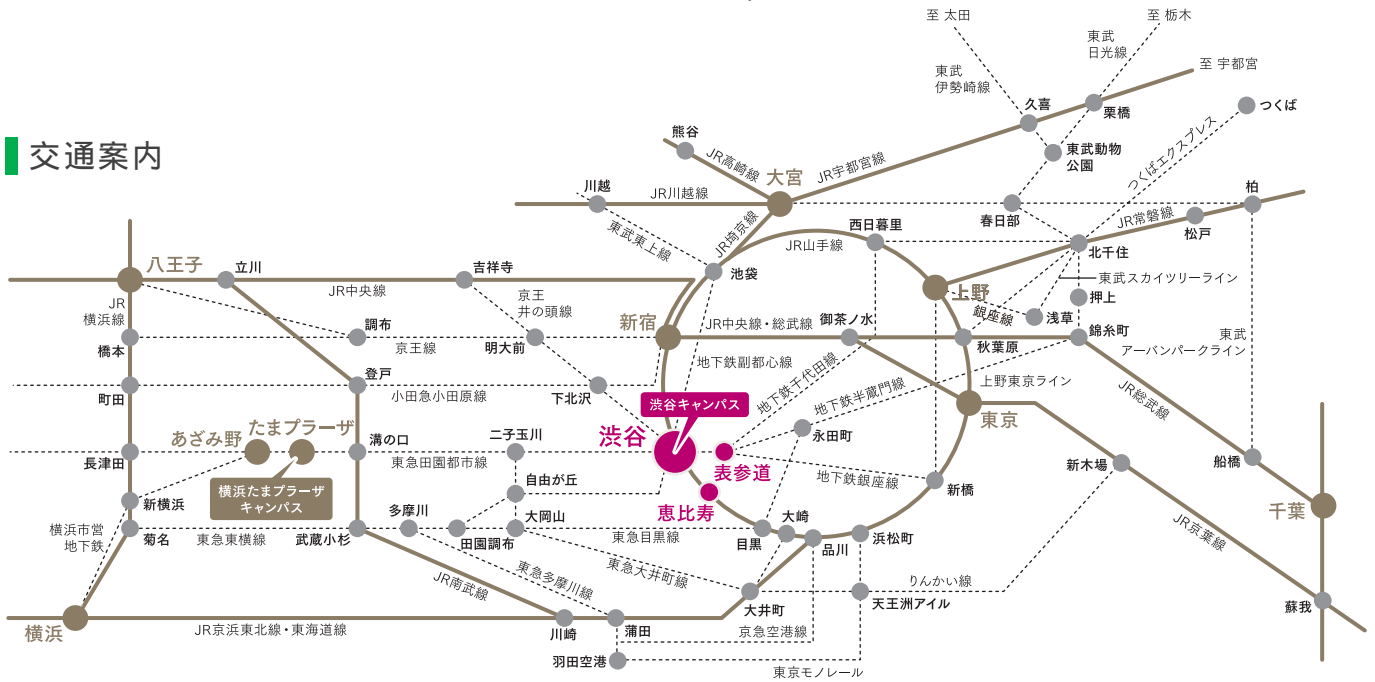
詳細はホームページでご確認ください。 <https://www.kokugakuin.ac.jp/admission/graduate/p1-1-1-4-2>



個人情報の取り扱いについて 保有期間は当該年度末まで

國學院大學では、「個人情報の保護に関する法律」を遵守し、個人情報の適正な取り扱いに努めています。資料申込の際に提出された個人情報は、資料送付のため以外には使用しません(この利用目的の範囲を超えて使用すること、本人の同意を得ずに第三者に提供することはありません)。

## 交通案内



### 渋谷キャンパス

#### 渋谷駅からのアクセス

- 渋谷駅 (JR山手線・地下鉄・京王井の頭線・東急各線)..... 徒歩約13分
- 渋谷駅 (JR埼京線・湘南新宿ライン)新南口..... 徒歩約10分
- 都営バス (渋谷駅東口バスターミナル54番のりば 学03日赤医療センター前行)  
..... 「国学院大学前」下車  
(運賃180円・IC178円)【渋谷駅から3番目の停留所、所要時間約10分】

#### 表参道駅からのアクセス

- 表参道駅 (地下鉄半蔵門線・銀座線・千代田線)B1出口..... 徒歩約15分

#### 恵比寿駅からのアクセス

- 恵比寿駅 (JR山手線・埼京線・湘南新宿ライン・地下鉄日比谷線)..... 徒歩約15分
- 都営バス (恵比寿駅西口ロータリー1番のりば 学06日赤医療センター前行)  
..... 「東四丁目」下車  
(運賃180円・IC178円)【恵比寿駅から3番目の停留所、所要時間約10分】

# 國學院大學大学院

〒150-8440 東京都渋谷区東4-10-28  
TEL: 03-5466-0142  
E-mail: daigakuin-j@kokugakuin.ac.jp  
<https://www.kokugakuin.ac.jp/education/fd/graduate>

